



Cisco Nexus 5000 シリーズ NX-OS システム管理コマンド リファレンス

Cisco NX-OS Release 4.x、5.x

初版 : 2008 年 10 月

最終更新日 : 2011 年 12 月

【注意】シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意
(www.cisco.com/jp/go/safety_warning/)をご確認ください。

本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。
あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。

また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: www.cisco.com/go/trademarks. Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1110R)

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、ネットワーク トポロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

Cisco Nexus 5000 シリーズ NX-OS システム管理コマンド リファレンス
© 2008-2011 Cisco Systems, Inc.
All rights reserved.

Copyright © 2008–2011, シスコシステムズ合同会社.
All rights reserved.



CONTENTS

はじめに	vii
対象読者	vii
サポートされるスイッチ	vii
Cisco Nexus 5000 プラットフォーム スイッチ	vii
Cisco Nexus 5500 プラットフォーム スイッチ	viii
マニュアルの構成	viii
表記法	ix
関連資料	x
リリース ノート	x
コンフィギュレーション ガイド	x
メンテナンスおよび操作ガイド	xi
インストレーション ガイドおよびアップグレード ガイド	xi
ライセンス ガイド	xi
コマンド リファレンス	xi
テクニカル リファレンス	xi
エラー メッセージおよびシステム メッセージ	xii
トラブルシューティング ガイド	xii
マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート	xii
新機能および変更された機能に関する情報	xiii
Cisco NX-OS リリースの新機能および変更された機能に関する情報	xiii
Cisco NX-OS Release 5.1(3)N1(1) の新機能および変更された機能に関する情報	xiii
Cisco NX-OS Release 5.0(3)N2(1) の新機能および変更された機能に関する情報	xiv
Cisco NX-OS Release 5.0(3)N1(1) の新機能および変更された機能に関する情報	xiv
Cisco NX-OS Release 5.0(2)N2(1) の新機能および変更された機能に関する情報	xv
Cisco NX-OS Release 5.0(2)N1(1) の新機能および変更された機能に関する情報	xvi
A コマンド	SM-1
abort (セッション)	SM-2
C コマンド	SM-3
clear logging logfile	SM-4
clear logging nvram	SM-5
clear logging onboard	SM-6

clear logging session SM-7

clear ntp session SM-8

clear ntp statistics SM-9

commit (セッション) SM-10

D コマンド SM-11

diagnostic bootup level SM-12

I コマンド SM-13

ip access-list (セッション) SM-14

ip dns source-interface SM-15

ip domain-list SM-17

ip domain-lookup SM-19

ip domain-name SM-20

ip host SM-22

ip name-server SM-23

ip port access-group (セッション) SM-25

L コマンド SM-27

logging abort SM-28

logging commit SM-29

logging console SM-30

logging distribute SM-31

logging event SM-32

logging event port SM-33

logging level SM-34

logging logfile SM-36

logging module SM-38

logging monitor SM-39

logging server SM-40

logging timestamp SM-42

N コマンド SM-43

ntp SM-44

ntp abort SM-45

ntp commit SM-46

ntp distribute SM-47

ntp sync-retry SM-48

S コマンド SM-49

- snmp-server community SM-50
- snmp-server contact SM-52
- snmp-server context SM-53
- snmp-server enable traps SM-55
- snmp-server enable traps link SM-58
- snmp-server enable traps vtp SM-60
- snmp-server globalEnforcePriv SM-61
- snmp-server host SM-62
- snmp-server location SM-64
- snmp-server mib community-map SM-65
- snmp-server tcp-session SM-66
- snmp-server user SM-67
- snmp trap link-status SM-69

show コマンド SM-71

- show diagnostic bootup level SM-72
- show diagnostic result SM-73
- show hosts SM-75
- show ip dns source-interface SM-76
- show logging console SM-77
- show logging info SM-78
- show logging last SM-79
- show logging level SM-80
- show logging logfile SM-82
- show logging module SM-83
- show logging monitor SM-84
- show logging nvram SM-85
- show logging onboard SM-86
- show logging pending SM-91
- show logging pending-diff SM-92
- show logging session status SM-93
- show logging server SM-94
- show logging status SM-95
- show logging timestamp SM-96
- show ntp peer-status SM-97

show ntp peers SM-98
show ntp statistics SM-99
show ntp timestamp-status SM-100
show snmp community SM-101
show snmp context SM-102
show snmp engineID SM-103
show snmp group SM-104
show snmp host SM-106
show snmp sessions SM-107
show snmp trap SM-108
show snmp user SM-110

V コマンド SM-111

verify (セッション) SM-112

システム メッセージ ロギング ファシリティ A-1



はじめに

ここでは、『Cisco Nexus 5000 シリーズ NX-OS システム管理コマンドリファレンス』の対象読者、構成、および表記法について説明します。また、関連マニュアルの入手方法についても説明します。

この前書きは、次の項で構成されています。

- 「対象読者」 (P.vii)
- 「サポートされるスイッチ」 (P.vii)
- 「マニュアルの構成」 (P.viii)
- 「表記法」 (P.ix)
- 「関連資料」 (P.x)
- 「マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート」 (P.xii)

対象読者

このマニュアルは、Cisco NX-OS デバイスを設定および管理する経験豊富なユーザの方を対象としています。

サポートされるスイッチ

ここでは、次の内容について説明します。

- 「Cisco Nexus 5000 プラットフォーム スイッチ」 (P.vii)
- 「Cisco Nexus 5500 プラットフォーム スイッチ」 (P.viii)

Cisco Nexus 5000 プラットフォーム スイッチ

表 1 に、Cisco Nexus 5000 プラットフォームでサポートされる Cisco スイッチを示します。



(注)

これらのスイッチの詳細については、次の URL にある『Cisco Nexus 5500 Platform and Cisco Nexus 5000 Platform Hardware Installation Guide』を参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/ps9670/tsd_products_support_series_home.html

表 1 サポートされる Cisco Nexus 5000 プラットフォーム スイッチ

スイッチ	説明
Cisco Nexus 5010 スイッチ	Cisco Nexus 5010 は、1 Rack Unit (RU; ラック ユニット) スイッチです。このスイッチは、従来の環境、仮想化環境、統合環境、ハイパフォーマンス コンピューティング (HPC) 環境に対し、500 Gbps ワイヤ速度のスイッチング機能を提供します。
Cisco Nexus 5020 スイッチ	Cisco Nexus 5020 は、2 Rack Unit (RU; ラック ユニット) スイッチです。このスイッチは、従来の環境、仮想化環境、統合環境、HPC 環境に対し、1+ Tbps ワイヤ速度のスイッチング機能を提供します。



(注) Cisco Nexus 5000 プラットフォーム スイッチは、インターネット グループ管理プロトコル (IGMP) スヌーピングのみをサポートします。IGMP、Protocol Independent Multicast (PIM)、Multicast Source Discovery Protocol (MSDP) は、Cisco Nexus 5000 プラットフォーム スイッチではサポートされません。

Cisco Nexus 5500 プラットフォーム スイッチ

表 2 に、Cisco Nexus 5500 プラットフォームでサポートされる Cisco スイッチを示します。



(注) これらのスイッチの詳細については、次の URL にある『Cisco Nexus 5500 Platform and Cisco Nexus 5000 Platform Hardware Installation Guide』を参照してください。
http://www.cisco.com/en/US/products/ps9670/tsd_products_support_series_home.html

表 2 サポートされる Cisco Nexus 5500 プラットフォーム スイッチ

スイッチ	説明
Cisco Nexus 5548P スイッチ	Cisco Nexus 5548P スイッチは、Cisco Nexus 5500 プラットフォームの最初のスイッチです。このスイッチは、1 Rack-Unit (1 RU) の 10 ギガビット イーサネットおよび Fibre Channel over Ethernet (FCoE) スイッチであり、最大 960 Gbps スループットおよび最大 48 ポートを提供します。
Cisco Nexus 5596P スイッチ	Cisco Nexus 5596P スイッチは、Top-of-Rack の 10 ギガビット イーサネットおよび FCoE スイッチであり、最大 1920 ギガビット スループットおよび最大 96 ポートを提供します。

マニュアルの構成

このマニュアルの構成は、次のとおりです。

章タイトル	説明
「新機能および変更された機能に関する情報」	新しい Cisco NX-OS ソフトウェア リリースの新機能および変更された機能について説明します。
「A コマンド」	A で始まる Cisco NX-OS システム管理コマンドについて説明します。
「C コマンド」	C で始まる Cisco NX-OS システム管理コマンドについて説明します。
「D コマンド」	D で始まる Cisco NX-OS システム管理コマンドについて説明します。
「I コマンド」	I で始まる Cisco NX-OS システム管理コマンドについて説明します。
「L コマンド」	L で始まる Cisco NX-OS システム管理コマンドについて説明します。
「N コマンド」	N で始まる Cisco NX-OS システム管理コマンドについて説明します。
「S コマンド」	S で始まる Cisco NX-OS システム管理コマンドについて説明します。
「show コマンド」	Cisco NX-OS システム管理 show コマンドについて説明します。
「V コマンド」	V で始まる Cisco NX-OS システム管理コマンドについて説明します。
「システム メッセージ ログイング ファシリティ」	Cisco NX-OS システム メッセージ ログイング ファシリティについて説明します。

表記法

コマンドの説明では、次の表記法を使用しています。

表記法	説明
太字	コマンドおよびキーワードは太字で示しています。
イタリック体	ユーザが値を指定する引数は、イタリック体で示しています。
[]	角カッコの中の要素は、省略可能です。
{x y z}	必ずどれか 1 つを選択しなければならない必須キーワードは、波カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
[x y z]	どれか 1 つを選択できる省略可能なキーワードは、角カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
string	引用符を付けない一組の文字。string の前後には引用符を使用しません。引用符を使用すると、その引用符も含めて string とみなされます。

出力例では、次の表記法を使用しています。

screen フォント	スイッチに表示される端末セッションおよび情報は、screen フォントで示しています。
太字の screen フォント	ユーザが入力しなければならない情報は、太字の screen フォントで示しています。
イタリック体の screen フォント	ユーザが値を指定する引数は、イタリック体の screen フォントで示しています。
< >	パスワードのように出力されない文字は、山カッコ (<>) で囲んで示しています。

[]	システムプロンプトに対するデフォルトの応答は、角カッコで囲んで示しています。
!, #	コードの先頭に感嘆符 (!) またはポンド記号 (#) がある場合には、コメント行であることを示します。

このマニュアルでは、次の表記法を使用しています。



(注)

「注釈」です。役立つ情報や、このマニュアル以外の参照資料などを紹介しています。



注意

「要注意」の意味です。機器の損傷またはデータ損失を予防するための注意事項が記述されています。

関連資料

Cisco Nexus 5000 シリーズ スイッチおよび Cisco Nexus 2000 シリーズ ファブリック エクステンダのマニュアルは、次の URL から入手できます。

http://www.cisco.com/en/US/products/ps9670/tsd_products_support_series_home.html

次に、Cisco Nexus 5000 シリーズおよび Cisco Nexus 2000 シリーズ ファブリック エクステンダに関連するマニュアルを示します。

リリース ノート

『Cisco Nexus 5000 Series and Cisco Nexus 2000 Series Release Notes』

『Cisco Nexus 5000 Series Switch Release Notes』

コンフィギュレーション ガイド

『Cisco Nexus 5000 Series Configuration Limits for Cisco NX-OS Release 5.0(2)N1(1)』

『Cisco Nexus 5000 Series Configuration Limits for Cisco NX-OS Release 4.2(1)N1(1) and Release 4.2(1)N2(1)』

『Cisco Nexus 5000 Series NX-OS Fibre Channel over Ethernet Configuration Guide』

『Cisco Nexus 5000 Series NX-OS Layer 2 Switching Configuration Guide』

『Cisco Nexus 5000 Series NX-OS Multicast Routing Configuration Guide』

『Cisco Nexus 5000 Series NX-OS Quality of Service Configuration Guide』

『Cisco Nexus 5000 Series NX-OS SAN Switching Configuration Guide』

『Cisco Nexus 5000 Series NX-OS Security Configuration Guide』

『Cisco Nexus 5000 Series NX-OS System Management Configuration Guide』

『Cisco Nexus 5000 Series NX-OS Unicast Routing Configuration Guide』

『Cisco Nexus 5000 Series Switch NX-OS Software Configuration Guide』

『Cisco Nexus 5000 Series Fabric Manager Configuration Guide, Release 3.4(1a)』

『Cisco Nexus 7000 Series NX-OS Fundamentals Configuration Guide, Release 6.x』

『Cisco Nexus 2000 Series Fabric Extender Software Configuration Guide』

メンテナンスおよび操作ガイド

『Cisco Nexus 5000 Series NX-OS Operations Guide』

インストールガイドおよびアップグレードガイド

『Cisco Nexus 5000 Series and Cisco Nexus 5500 Platform Hardware Installation Guide』

『Cisco Nexus 2000 Series Hardware Installation Guide』

『Cisco Nexus 5000 Series NX-OS Software Upgrade and Downgrade Guide, Release 4.2(1)N1(1)』

『Regulatory Compliance and Safety Information for the Cisco Nexus 5000 Series Switches and Cisco Nexus 2000 Series Fabric Extenders』

ライセンスガイド

『Cisco NX-OS Licensing Guide』

コマンドリファレンス

『Cisco Nexus 5000 Series NX-OS FabricPath Command Reference』

『Cisco Nexus 5000 Series NX-OS Fabric Extender Command Reference』

『Cisco Nexus 5000 Series NX-OS Fibre Channel Command Reference』

『Cisco Nexus 5000 Series NX-OS Fundamentals Command Reference』

『Cisco Nexus 5000 Series NX-OS Layer 2 Interfaces Command Reference』

『Cisco Nexus 5000 Series NX-OS Multicast Routing Command Reference』

『Cisco Nexus 5000 Series NX-OS QoS Command Reference』

『Cisco Nexus 5000 Series NX-OS Security Command Reference』

『Cisco Nexus 5000 シリーズ NX-OS システム管理コマンドリファレンス』

『Cisco Nexus 5000 Series NX-OS TrustSec Command Reference』

『Cisco Nexus 5000 Series NX-OS Unicast Routing Command Reference』

『Cisco Nexus 5000 Series NX-OS vPC Command Reference』

テクニカルリファレンス

『Cisco Nexus 5000 Series and Cisco Nexus 2000 Series Fabric Extender MIBs Reference』

エラー メッセージおよびシステム メッセージ

『Cisco NX-OS System Messages Reference』

トラブルシューティング ガイド

『Cisco Nexus 5000 Troubleshooting Guide』

マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート

マニュアルの入手方法、テクニカル サポート、その他の有用な情報について、次の URL で、毎月更新される『*What's New in Cisco Product Documentation*』を参照してください。シスコの新規および改訂版の技術マニュアルの一覧も示されています。

<http://www.cisco.com/en/US/docs/general/whatsnew/whatsnew.html>

『*What's New in Cisco Product Documentation*』は RSS フィードとして購読できます。また、リーダーアプリケーションを使用してコンテンツがデスクトップに直接配信されるように設定することもできます。RSS フィードは無料のサービスです。シスコは現在、RSS バージョン 2.0 をサポートしています。



新機能および変更された機能に関する情報

この章では、『Cisco Nexus 5000 シリーズ NX-OS システム管理コマンドリファレンス』の新機能および変更された機能に関するリリース固有の情報を示します。このマニュアルの最新バージョンは、次のシスコ Web サイトから入手できます。

http://www.cisco.com/en/US/products/ps9670/prod_command_reference_list.html

この Cisco NX-OS リリースに関する追加情報を確認するには、次のシスコ Web サイトから入手できる『Cisco Nexus 5000 Series Switch Release Notes』を参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/ps9670/prod_release_notes_list.html

Cisco NX-OS リリースの新機能および変更された機能に関する情報

ここでは、次の内容について説明します。

- 「Cisco NX-OS Release 5.1(3)N1(1) の新機能および変更された機能に関する情報」 (P.xiii)
- 「Cisco NX-OS Release 5.0(3)N2(1) の新機能および変更された機能に関する情報」 (P.xiv)
- 「Cisco NX-OS Release 5.0(3)N1(1) の新機能および変更された機能に関する情報」 (P.xiv)
- 「Cisco NX-OS Release 5.0(2)N2(1) の新機能および変更された機能に関する情報」 (P.xv)
- 「Cisco NX-OS Release 5.0(2)N1(1) の新機能および変更された機能に関する情報」 (P.xvi)

Cisco NX-OS Release 5.1(3)N1(1) の新機能および変更された機能に関する情報

表 1 では、Cisco NX-OS Release 5.1(3)N1(1) の新機能および変更された機能を要約し、その参照先を示しています。

表 1 Release 5.1(3)N1(1) の新機能および変更された機能に関する情報

機能	説明	参照先
ドメイン ネーム サーバ (DNS) の機能拡張	次のコマンドが導入されました。 <ul style="list-style-type: none"> • ip dns source-interface • show ip dns source-interface 	
簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP) の機能拡張	次のコマンドが更新されました。 <ul style="list-style-type: none"> • snmp trap link-status 	

Cisco NX-OS Release 5.0(3)N2(1) の新機能および変更された機能に関する情報

Cisco NX-OS Release 5.0(3)N2(1) には、新機能および変更された機能はありません。

Cisco NX-OS Release 5.0(3)N1(1) の新機能および変更された機能に関する情報

表 2 では、Cisco NX-OS Release 5.0(3)N1(1) の新機能および変更された機能を要約し、その参照先を示しています。

表 2 Release 5.0(3)N1(1) の新機能および変更された機能に関する情報

機能	説明	参照先
Domain Name System (DNS; ドメイン ネーム システム)	<p>この機能が導入されました。</p> <p>次の DNS コマンドが導入されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ip domain-list • ip domain-lookup • ip domain-name • ip host • ip name-server • show hosts 	<p>ip domain-list</p> <p>ip domain-lookup</p> <p>ip domain-name</p> <p>ip host</p> <p>ip name-server</p> <p>show hosts</p>
簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP)	<p>次の SNMP コマンドが追加されました。</p> <p>(注) これらのコマンドは、以前のリリースのマニュアルには含まれていません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • snmp-server contact • snmp-server context • snmp-server enable traps • snmp-server enable traps link • snmp-server globalEnforcePriv • snmp-server host • snmp-server location • snmp-server mib community-map • snmp-server tcp-session • snmp-server user • snmp trap link-status • show snmp user 	<p>snmp-server contact</p> <p>snmp-server context</p> <p>snmp-server enable traps</p> <p>snmp-server enable traps link</p> <p>snmp-server globalEnforcePriv</p> <p>snmp-server host</p> <p>snmp-server location</p> <p>snmp-server mib community-map</p> <p>snmp-server tcp-session</p> <p>snmp-server user</p> <p>snmp trap link-status</p> <p>show snmp context</p> <p>show snmp engineID</p> <p>show snmp group</p> <p>show snmp host</p> <p>show snmp sessions</p> <p>show snmp trap</p> <p>show snmp user</p>

Cisco NX-OS Release 5.0(2)N2(1) の新機能および変更された機能に関する情報

Cisco NX-OS Release 5.0(2)N2(1) には、新機能および変更された機能はありません。

Cisco NX-OS Release 5.0(2)N1(1) の新機能および変更された機能に関する情報

表 3 では、Cisco NX-OS Release 5.0(2)N1(1) の新機能および変更された機能を要約し、その参照先を示しています。

表 3 Release 5.0(2)N1(1) の新機能および変更された機能に関する情報

機能	説明	変更されたリリース	参照先
Release 5.0(2)N1(1)			
VTP ドメインの SNMP 通知	VTP ドメインの SNMP 通知をイネーブルにできます。	5.0(2)N1(1)	snmp-server enable traps vtp



A コマンド

この章では、A で始まるシステム管理コマンドについて説明します。

abort (セッション)

現在のコンフィギュレーションセッションを廃棄するには、**abort** コマンドを使用します。

abort

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

セッション コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、現在のコンフィギュレーションセッションを停止する例を示します。

```
switch# configure session MySession1  
switch(config-s)# abort  
switch#
```

関連コマンド

コマンド	説明
commit	セッションをコミットします。
configure session	コンフィギュレーションセッションを作成します。
show configuration session	セッションの内容を表示します。
verify	セッションを検証します。



C コマンド

この章では、C で始まるシステム管理コマンドについて説明します。

clear logging logfile

ログ ファイルの内容をクリアするには、**clear logging logfile** コマンドを使用します。

clear logging logfile

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、ロギング ログファイルをクリアする例を示します。

```
switch# clear logging logfile
switch#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show logging logfile	ログ ファイルのメッセージを表示します。

clear logging nvram

NVRAM ログをクリアするには、**clear logging nvram** コマンドを使用します。

clear logging nvram

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、NVRAM ログをクリアする例を示します。

```
switch# clear logging nvram
```

関連コマンド

コマンド	説明
show logging nvram	NVRAM ログを表示します。

clear logging onboard

永続ログの Onboard Failure Logging (OBFL; オンボード障害ロギング) エントリをクリアするには、**clear logging onboard** コマンドを使用します。

clear logging onboard [**environmental-history**] [**exception-log**] [**obfl-log**] [**stack-trace**]

構文の説明

environmental-history	(任意) OBFL 環境履歴をクリアします。
exception-log	(任意) OBFL 例外ログのエントリをクリアします。
obfl-log	(任意) OBFL (boot-uptime/device-version/obfl-history) をクリアします。
stack-trace	(任意) OBFL スタック トレースのエントリをクリアします。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、OBFL 環境履歴のエントリをクリアする例を示します。

```
switch# clear logging onboard environmental-history
```

次に、OBFL 例外ログのエントリをクリアする例を示します。

```
switch# clear logging onboard exception-log
```

次に、OBFL (boot-uptime/device-version/obfl-history) のエントリをクリアする例を示します。

```
switch# clear logging onboard obfl-log
```

次に、OBFL スタック トレースのエントリをクリアする例を示します。

```
switch# clear logging onboard stack-trace
```

関連コマンド

コマンド	説明
show logging onboard	オンボード失敗ログを表示します。

clear logging session

現在のロギングセッションをクリアするには、**clear logging session** コマンドを使用します。

clear logging session

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、現在のロギングセッションをクリアする例を示します。

```
switch# clear logging session
```

関連コマンド

コマンド	説明
show logging session	ロギングセッションのステータスを表示します。

clear ntp session

Network Time Protocol (NTP; ネットワーク タイム プロトコル) セッションをクリアするには、**clear ntp session** コマンドを使用します。

clear ntp session

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、処理中の NTP Cisco Fabric Service (CFS) 配信セッションを廃棄する例を示します。

```
switch# clear ntp session
```

関連コマンド

コマンド	説明
show ntp	NTP 情報を表示します。

clear ntp statistics

ネットワーク タイム プロトコル (NTP) セッションをクリアするには、**clear ntp statistics** コマンドを使用します。

clear ntp statistics {all-peers | io | local | memory}

構文の説明	オプション	説明
	all-peers	すべてのピア トランザクション統計情報をクリアします。
	io	I/O 統計情報をクリアします。
	local	ローカル統計情報をクリアします。
	memory	メモリ統計情報をクリアします。

コマンド デフォルト なし

コマンド モード EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例
次に、NTP I/O 統計情報を廃棄する例を示します。
switch# **clear ntp statistics io**

関連コマンド	コマンド	説明
	show ntp	NTP 情報を表示します。

commit (セッション)

現在のコンフィギュレーションセッションをコミットするには、**commit** コマンドを使用します。

commit

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

セッション コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、現在のセッションをコミットする例を示します。

```
switch(config-s)# commit  
switch(config-s)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
configure session	コンフィギュレーションセッションを作成します。
show configuration session	セッションの内容を表示します。
verify	セッションを検証します。



D コマンド

この章では、D で始まるシステム管理コマンドについて説明します。

diagnostic bootup level

デバイスの起動時に診断がトリガーされるようにブートアップ診断レベルを設定するには、**diagnostic bootup level** コマンドを使用します。ブートアップ診断レベルを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

diagnostic bootup level {bypass | complete}

no diagnostic bootup level {bypass | complete}

構文の説明

bypass	すべてのブートアップ テストをスキップするように指定します。
complete	すべてのブートアップ診断を実行するように指定します。これがデフォルト値です。

コマンドデフォルト

complete

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1)	このコマンドが追加されました。
4.2(1)N2(1)	スイッチに接続されたすべての Cisco Nexus 2000 シリーズ ファブリック エクステンダの診断レベルを制御するためにサポートが追加されました。

例

次に、完全な診断を実行するようブートアップ診断レベルを設定する例を示します。

```
switch(config)# diagnostic bootup level complete
switch(config)#
```

次に、ブートアップ診断レベル設定を削除する例を示します。

```
switch(config)# no diagnostic bootup level complete
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show diagnostic bootup level	起動時診断レベルを表示します。
show diagnostic bootup result	診断テストの結果を表示します。



I コマンド

この章では、I で始まるシステム管理コマンドについて説明します。

ip access-list (セッション)

コンフィギュレーションセッション内に IPv4 アクセス コントロール リスト (ACL) を作成するには、**ip access-list** コマンドを使用します。コンフィギュレーションセッションから ACL を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ip access-list *ACL-name*

no ip access-list *ACL-name*

構文の説明

<i>ACL-name</i>	IPv4 ACL の名前。名前には、最大 64 文字の英数字を指定できます。空白文字または引用符を含めることはできません。
-----------------	---

コマンド デフォルト

デフォルトでは、IPv4 ACL は定義されません。

コマンド モード

グローバル セッション コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、コンフィギュレーションセッションに対し IPv4 ACL を作成する例を示します。

```
switch# configure session MySession1
switch(config-s)# ip access-list myACL
switch(config-s-acl)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
configure session	コンフィギュレーションセッションを作成します。
deny	IPv4 ACL に拒否 (deny) ルールを設定します。
permit	IPv4 ACL に許可 (permit) ルールを設定します。
show configuration session	セッションの内容を表示します。

ip dns source-interface

ドメイン ネーム サーバ (DNS) ドメイン ルックアップ用の送信元インターフェイスを設定するには、**ip dns source-interface** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
ip dns source-interface {ethernet slot/port | loopback intf-num} [vrf {vrf-name | default | management}]
```

```
no ip dns source-interface {ethernet slot/port | loopback intf-num} [vrf {vrf-name | default | management}]
```

構文の説明

ethernet slot/port	イーサネット インターフェイスを送信元インターフェイスとして使用するように指定します。スロット番号は 1 ~ 255、ポート番号は 1 ~ 128 です。
loopback intf-num	ループバック インターフェイスを送信元インターフェイスとして使用するように指定します。値の範囲は 0 ~ 1023 です。
vrf	(任意) Virtual Routing and Forwarding (VRF; 仮想ルーティングおよび転送) インスタンスを指定します。
<i>vrf-name</i>	(任意) VRF 名です。名前は最大 32 文字で、大文字と小文字が区別されません。
default	(任意) デフォルトの VRF を指定します。
management	(任意) 管理 VRF を指定します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.1(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例

次に、DNS ルックアップの送信元インターフェイスとして、イーサネット インターフェイスを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal  
switch(config)# ip dns source-interface ethernet 1/5  
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
ip domain-lookup	DNS ルックアップ機能をイネーブルにします。
show ip dns source-interface	DNS 送信元インターフェイスに関する情報を表示します。

ip domain-list

IP ドメイン リストを設定するには、**ip domain-list** コマンドを使用します。IP ドメイン リストをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
ip domain-list domain-name [use-vrf name]
```

```
no ip domain-list domain-name [use-vrf name]
```

構文の説明

domain-list	IP ドメイン リストのドメイン名を指定します。63 文字以内の英数字のストリング（大文字と小文字を区別）で指定します。
use-vrf name	(任意) IP ドメイン リストのドメイン名の解決に使用する Virtual Routing and Forwarding (VRF; 仮想ルーティング/転送) を指定します。name には最大 32 文字の英数字を使用できます。大文字と小文字は区別されます。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード
VRF コンテキスト コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

ip domain-list コマンドは、デバイス用の追加のドメイン名を設定するために使用します。**vrf context** コマンドは、VRF コンテキスト モードに入って、特定の VRF 用の追加のドメイン名を設定するために使用します。

例

次に、デフォルト VRF の IP ドメイン リストを設定する例を示します。

```
switch# config terminal  
switch(config)# ip domain-list Mysite.com
```

次に、管理 VRF の IP ドメイン リストを設定する例を示します。

```
switch# config terminal  
switch(config)# vrf context management  
switch(config-vrf)# ip domain-list Mysite.com
```

次に、デフォルト VRF を介してドメイン名を解決できない場合に管理 VRF をバックアップとして使用するよう、デフォルト VRF の IP ドメイン リストを設定する例を示します。

```
switch# config terminal  
switch(config)# vrf context management  
switch(config-vrf)# exit  
switch(config)# ip domain-name Mysite.com use-vrf management  
switch(config)# ip name-server 192.0.2.1  
switch(config)# ip domain-list Mysite2.com
```

関連コマンド

コマンド	説明
show hosts	IP ドメイン名の設定に関する情報を表示します。

ip domain-lookup

Domain Name Server (DNS; ドメイン ネーム サーバ) の検索機能をイネーブルにするには、**ip domain-lookup** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ip domain-lookup

no ip domain-lookup

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

ip domain-lookup コマンドは、DNS をイネーブルにするために使用します。

例

次に、DNS サーバ検索機能を設定する例を示します。

```
switch# config terminal
switch(config)# vrf context management
switch(config-vrf)# exit
switch(config)# ip domain-name Mysite.com use-vrf management
switch(config)# ip name-server 192.0.2.1
switch(config)# ip domain-lookup
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show hosts	DNS に関する情報を表示します。

ip domain-name

ドメイン名を設定するには、**ip domain-name** コマンドを使用します。ドメイン名を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ip domain-name *domain-name* [*use-vrf name*]

no ip domain-name *domain-name* [*use-vrf name*]

構文の説明

<i>domain-name</i>	ドメイン名。63 文字以内の英数字のストリング（大文字と小文字を区別）で指定します。
<i>use-vrf name</i>	(任意) ドメイン名の解決に使用される VRF を指定します。name には最大 32 文字の英数字を使用できます。大文字と小文字は区別されます。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード
VRF コンテキスト コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

ip domain-name コマンドは、デバイス用のドメイン名を設定するために使用します。**vrf context** コマンドは、VRF コンテキスト モードに入って、特定の VRF 用のドメイン モナステリを設定するために使用します。

例

次に、デフォルト VRF の IP ドメイン名を設定する例を示します。

```
switch# config terminal
switch(config)# ip domain-name Mysite.com
switch(config)#
```

次に、管理 VRF の IP ドメイン名を設定する例を示します。

```
switch# config terminal
switch(config)# vrf context management
switch(config-vrf)# ip domain-name Mysite.com
switch(config-vrf)#
```

次に、デフォルト VRF を介してドメイン名を解決できない場合に管理 VRF をバックアップとして使用するように、デフォルト VRF の IP ドメイン名を設定する例を示します。

```
switch# config terminal
switch(config)# vrf context management
switch(config-vrf)# exit
switch(config)# ip domain-name Mysite.com use-vrf management
```

関連コマンド

コマンド	説明
ip domain-list	IP ドメイン リストを設定します。
ip domain-lookup	ドメイン ネーム サーバ (DNS) ルックアップ機能をイネーブルにします。
show hosts	IP ドメイン名の設定に関する情報を表示します。

ip host

ドメイン ネーム システム (DNS) のホスト名キャッシュ内でスタティック ホスト名/アドレス マッピングを定義するには、**ip host** コマンドを使用します。ホスト名/アドレス マッピングを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
ip host name address1 [address2... address6]
```

```
no ip host name address1 [address2... address6]
```

構文の説明

<i>name</i>	ホスト名。 <i>name</i> は、大文字と小文字が区別される 80 文字以下の任意の英数字文字列にできます。
<i>address1</i>	x.x.x.x 形式の IPv4 アドレス。
<i>address2 ...address6</i>	(任意) x.x.x.x 形式の追加の IPv4 アドレス (最大 5 個)。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

ip host コマンドは、スタティック ホスト名を DNS に追加するために使用します。

例

次に、スタティック ホスト名の設定例を示します。

```
switch(config)# ip host mycompany.com 192.0.2.1
```

関連コマンド

コマンド	説明
show hosts	IP ドメイン名の設定に関する情報を表示します。

ip name-server

ネームサーバを設定するには、**ip name-server** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ip name-server ip-address [use-vrf name]

no ip name-server ip-address [use-vrf name]

構文の説明

<i>ip-address</i>	ネームサーバの IP アドレス。
<i>use-vrf name</i>	(任意) ネームサーバに到達するために使用する VRF を指定します。name には最大 32 文字の英数字を使用できます。大文字と小文字は区別されません。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード
VRF コンテキスト コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

ip name-server コマンドは、ネームサーバをデバイス用に設定するために使用します。**vrf context** コマンドは、VRF コンテキスト モードに入って、特定の VRF 用のドメイン名を設定するために使用します。

例

次に、デフォルト VRF の IP ネームサーバを設定する例を示します。

```
switch# config terminal
switch(config)# vrf context management
switch(config-vrf)# exit
switch(config)# ip domain-name Mysite.com use-vrf management
switch(config)# ip name-server 192.0.2.1
```

次に、管理 VRF の IP ネームサーバを設定する例を示します。

```
switch# config terminal
switch(config)# vrf context management
switch(config-vrf)# ip name-server 192.0.2.1
```

次に、IP ネームサーバにデフォルト VRF 経由で到達できない場合にバックアップとして管理 VRF を使用するようデフォルト VRF の IP ネームサーバを設定する例を示します。

```
switch# config terminal
switch(config)# vrf context management
switch(config-vrf)# exit
switch(config)# ip domain-name Mysite.com use-vrf management
```

ip name-server

```
switch(config)# ip name-server 192.0.2.1 use-vrf management
```

関連コマンド

コマンド	説明
ip domain-list	ドメインのリストを定義します。
ip domain lookup	DNS ベースのホスト名からアドレスへの変換をイネーブルにします。
show hosts	IP ドメイン名の設定に関する情報を表示します。
vrf context	仮想ルーティング/転送 (VRF) インスタンスを作成します。

ip port access-group (セッション)

IPv4 アクセス コントロール リスト (ACL) をインターフェイスのポート ACL として適用するには、**ip port access-group** コマンドを使用します。インターフェイスから IPv4 ACL を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
ip port access-group access-list-name {in | out}
```

```
no ip port access-group access-list-name {in | out}
```

構文の説明

<i>access-list-name</i>	IPv4 ACL の名前。名前では最大 64 文字までの英数字を使用でき、大文字と小文字が区別されます。
in	ACL を着信トラフィックに適用するように指定します。
out	ACL を発信トラフィックに適用するように指定します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

セッション インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、イーサネット インターフェイス 1/2 に対して、ip-acl-01 という IPv4 ACL をポート ACL として適用する例を示します。

```
switch# configure session MySession1
switch(config-s)# interface ethernet 1/2
switch(config-s-if)# ip port access-group ip-acl-01 in
switch(config-s-if)#
```

次に、イーサネット インターフェイス 1/2 から、ip-acl-01 という IPv4 ACL を削除する例を示します。

```
switch(config-s)# interface ethernet 1/2
switch(config-s-if)# no ip port access-group ip-acl-01 in
switch(config-s-if)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show access-lists	すべての ACL を表示します。
show configuration session	セッションの内容を表示します。

■ ip port access-group (セッション)



L コマンド

この章では、L で始まるシステム管理コマンドについて説明します。

logging abort

Syslog サーバの設定に対する保留中の変更を廃棄するには、**logging abort** コマンドを使用します。

logging abort

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、Syslog サーバの設定に加えられた変更を廃棄する例を示します。

```
switch(config)# logging distribute
switch(config)# logging abort
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
logging distribute	CFS インフラストラクチャを使用して、ネットワーク スイッチへの Syslog サーバ設定の配布をイネーブルにします。
show logging pending	Syslog サーバ設定に対する保留中の変更を表示します。
show logging status	ロギング ステータスを表示します。

logging commit

ファブリック内のスイッチへ配布するための Syslog サーバ設定に対する保留中の変更をコミットするには、**logging commit** コマンドを使用します。

logging commit

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、Syslog サーバ設定の配布をコミットする例を示します。

```
switch(config)# logging distribute
switch(config)# commit
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
logging distribute	CFS インフラストラクチャを使用して、ネットワーク スイッチへの Syslog サーバ設定の配布をイネーブルにします。
show logging status	ロギング ステータスを表示します。

logging console

コンソールセッションでロギングメッセージをイネーブルにするには、**logging console** コマンドを使用します。コンソールセッションのロギングメッセージをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

logging console [*severity-level*]

no logging console

構文の説明

<i>severity-level</i>	(任意) 作成するメッセージログの重大度です。指定されたレベルまたは指定されたレベルよりも小さい数値のメッセージがログに記録されます。重大度は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • 0 : 緊急事態。システムは使用不能です。 • 1 : アラート。早急なアクションが必要です。 • 2 : クリティカル。クリティカルな状態です。デフォルトはこのレベルです。 • 3 : エラー。エラー状態です。 • 4 : 警告。警告状態です。 • 5 : 通知。正常だが注意が必要な状態です。 • 6 : 情報。情報目的のメッセージだけです。 • 7 : デバッグ。デバッグ実行時にだけ表示されます。
-----------------------	---

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、コンソールセッションで重大度 4（警告）以上を使用してロギングメッセージをイネーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# logging console 4
```

関連コマンド

コマンド	説明
show logging console	コンソール ロギング設定を表示します。

logging distribute

Cisco Fabric Service (CFS) インフラストラクチャを使用して、ネットワーク スイッチへの Syslog サーバ設定の配布をイネーブルにするには、**logging distribute** コマンドを使用します。配信をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

logging distribute

no logging distribute

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

配布はディセーブルです。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、Syslog サーバ設定の配布をイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# logging distribute
switch(config)#
```

次に、Syslog サーバ設定の配布をディセーブルにする例を示します。

```
switch(config)# no logging distribute
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
logging abort	Syslog サーバ設定に対する保留中の変更をキャンセルします。
logging commit	ファブリック内のスイッチへ配布するための Syslog サーバ設定に対する変更をコミットします。
show logging status	ロギング ステータスを表示します。

logging event

インターフェイス イベントを記録するには、**logging event** コマンドを使用します。インターフェイス イベントのログの記録をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

logging event port {link-status | trunk-status} {default | enable}

no logging event port {link-status | trunk-status} {default | enable}

構文の説明

link-status	すべての UP/DOWN および CHANGE メッセージをログに記録します。
trunk-status	すべての TRUNK ステータス メッセージをログに記録します。
default	ロギングが明示的に設定されていないインターフェイスで、デフォルトのロギング設定を使用します。
enable	ポート レベルの設定を上書きしてロギングをイネーブルにします。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、インターフェイス イベントをログに記録する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# logging event link-status default
```

関連コマンド

コマンド	説明
show logging	ロギング ステータスを表示します。

logging event port

インターフェイスのイベントをログに記録するには、**logging event port** コマンドを使用します。インターフェイス イベントのログの記録をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

logging event port {link-status | trunk-status} [default]

no logging event port {link-status | trunk-status}

構文の説明

link-status	すべての UP/DOWN および CHANGE メッセージをログに記録します。
trunk-status	すべての TRUNK ステータス メッセージをログに記録します。
default	(任意) ログが明示的に設定されていないインターフェイスで、デフォルトのログ設定を使用します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、インターフェイス イベントをログに記録する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface ethernet 1/1
switch(config-if)# logging event port link-status default
```

関連コマンド

コマンド	説明
show interface	インターフェイス コンフィギュレーション情報を表示します。
show logging	ログ ステータスを表示します。

logging level

指定した重大度以上の定義済みファシリティからのメッセージ ロギングをイネーブルにするには、**logging level** コマンドを使用します。定義済みファシリティからのメッセージ ロギングをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

logging level facility severity-level

no logging level facility severity-level

構文の説明

<i>facility</i>	ファシリティ。ファシリティのリストを付録 A「システム メッセージ ロギング ファシリティ」の表 A-1 に示します。 同じ重大度をすべてのファシリティに適用するには、 all ファシリティを使用します。
<i>severity-level</i>	作成するメッセージ ログの重大度です。指定されたレベルまたは指定されたレベルよりも小さい数値のメッセージがログに記録されます。重大度は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • 0：緊急事態。システムは使用不能です。 • 1：アラート。早急なアクションが必要です。 • 2：クリティカル。クリティカルな状態です。デフォルトはこのレベルです。 • 3：エラー。エラー状態です。 • 4：警告。警告状態です。 • 5：通知。正常だが注意が必要な状態です。 • 6：情報。情報目的のメッセージだけです。 • 7：デバッグ。デバッグ実行時にだけ表示されます。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。
5.0(3)N1(1)	マルチキャストおよびユニキャスト ルーティング機能のサポートが追加されました。
5.0(3)N2(1)	Flex Link および Fibre Channel over Ethernet (FCoE) の N ポート バーチャライザ (NPV) のサポートが追加されました。

例 次に、重大度が 2 以上の AAA ファシリティからのメッセージ ログをイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# logging level aaa 2
```

関連コマンド

コマンド	説明
show logging level	ファシリティ ログ レベルの設定を表示します。

logging logfile

システム メッセージを格納するログ ファイルの名前、およびそのファイルへのログ記録の対象となる最小重大度を設定するには、**logging logfile** コマンドを使用します。ログ ファイルへのロギングをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

logging logfile logfile-name severity-level [size bytes]

no logging logfile [logfile-name severity-level [size bytes]]

構文の説明

<i>logfile-name</i>	システム メッセージを格納するログ ファイルの名前を設定します。
<i>severity-level</i>	作成するメッセージ ログの重大度です。指定されたレベルまたは指定されたレベルよりも小さい数値のメッセージがログに記録されます。重大度は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • 0 : 緊急事態。システムは使用不能です。 • 1 : アラート。早急なアクションが必要です。 • 2 : クリティカル。クリティカルな状態です。デフォルトはこのレベルです。 • 3 : エラー。エラー状態です。 • 4 : 警告。警告状態です。 • 5 : 通知。正常だが注意が必要な状態です。 • 6 : 情報。情報目的のメッセージだけです。 • 7 : デバッグ。デバッグ実行時にだけ表示されます。
<i>size bytes</i>	(任意) 最大ファイル サイズを指定します。デフォルトのファイル サイズは 4194304 バイトです。設定可能範囲は 4096 ~ 4194304 バイトです。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、システム メッセージを格納する logfile という名前のログ ファイルを設定し、その重大度を 4 に設定する例を示します。

```
switch(config)# logging logfile logfile 4
```

関連コマンド

コマンド	説明
show logging logfile	ログ ファイルを表示します。

logging module

モジュール ログ メッセージをイネーブルにするには、**logging module** コマンドを使用します。モジュール ログ メッセージをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

logging module [*severity-level*]

no logging module

構文の説明

severity-level

(任意) 作成するメッセージ ログの重大度です。指定されたレベルまたは指定されたレベルよりも小さい数値のメッセージがログに記録されます。重大度は次のとおりです。

- **0** : 緊急事態。システムは使用不能です。
- **1** : アラート。早急なアクションが必要です。
- **2** : クリティカル。クリティカルな状態です。
- **3** : エラー。エラー状態です。
- **4** : 警告。警告状態です。
- **5** : 通知。正常だが注意が必要な状態です。デフォルトはこのレベルです。
- **6** : 情報。情報目的のメッセージだけです。
- **7** : デバッグ。デバッグ実行時にだけ表示されます。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

指定された重大度を設定、またはデフォルトを使用します。

例

次に、モジュール ログ メッセージをイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# logging module
```

関連コマンド

コマンド	説明
show logging module	モジュール ロギング ステータスを表示します。

logging monitor

デバイスでモニタ（端末回線）のメッセージのログをイネーブルにするには、**logging monitor** コマンドを使用します。モニタ ログ メッセージをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

logging monitor [*severity-level*]

no logging monitor

構文の説明

<i>severity-level</i>	(任意) 作成するメッセージ ログの重大度です。指定されたレベルまたは指定されたレベルよりも小さい数値のメッセージがログに記録されます。重大度は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">• 0 : 緊急事態。システムは使用不能です。• 1 : アラート。早急なアクションが必要です。• 2 : クリティカル。クリティカルな状態です。デフォルトはこのレベルです。• 3 : エラー。エラー状態です。• 4 : 警告。警告状態です。• 5 : 通知。正常だが注意が必要な状態です。• 6 : 情報。情報目的のメッセージだけです。• 7 : デバッグ。デバッグ実行時にだけ表示されます。
-----------------------	---

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

この設定は、Telnet セッションと Secure Shell (SSH; セキュア シェル) に適用されます。

例

次に、モニタ ログ メッセージをイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# logging monitor
```

関連コマンド

コマンド	説明
show logging monitor	モニタ ロギング ステータスを表示します。

logging server

指定したホスト名または IPv4/IPv6 アドレスのリモート Syslog サーバを設定するには、**logging server** コマンドを使用します。リモート Syslog サーバをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
logging server host [severity-level] [facility {auth | authpriv | cron | daemon | ftp | kernel | local0 | local1 | local2 | local3 | local4 | local5 | local6 | local7 | lpr | mail | news | syslog | user | uucp}] use-vrf {vrf_name | management}
```

```
no logging server host [severity-level] [facility {auth | authpriv | cron | daemon | ftp | kernel | local0 | local1 | local2 | local3 | local4 | local5 | local6 | local7 | lpr | mail | news | syslog | user | uucp}] use-vrf {vrf_name | management}
```

構文の説明

<i>host</i>	リモート Syslog サーバのホスト名または IPv4/IPv6 アドレス。
<i>severity-level</i>	(任意) 作成するメッセージ ログの重大度です。指定されたレベルまたは指定されたレベルよりも小さい数値のメッセージがログに記録されます。重大度は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • 0 : 緊急事態。システムは使用不能です。 • 1 : アラート。早急なアクションが必要です。 • 2 : クリティカル。クリティカルな状態です。デフォルトはこのレベルです。 • 3 : エラー。エラー状態です。 • 4 : 警告。警告状態です。 • 5 : 通知。正常だが注意が必要な状態です。 • 6 : 情報。情報目的のメッセージだけです。 • 7 : デバッグ。デバッグ実行時にだけ表示されます。
facility <i>facility</i>	(任意) 発信ファシリティ (<i>facility</i>) を指定します。ファシリティのリストを付録 A 「システム メッセージ ログिंग ファシリティ」の表 A-1 に示します。 デフォルトの発信ファシリティは local7 です。
vrf <i>vrf_name</i>	(任意) リモート サーバで使用される Virtual Routing and Forwarding (VRF; 仮想ルーティングおよび転送) を指定します。この名前には最大 32 文字までの英数字を指定できます。
management	管理 VRF を指定します。これがデフォルトの VRF です。

コマンド デフォルト

デフォルトの発信ファシリティは **local7** です。
デフォルト VRF は **management** です。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。
4.1(3)N2(1)	use-vrf キーワードが追加されました。

例

次に、デフォルトの発信ファシリティを使用して、指定された IPv4 アドレスにリモート Syslog サーバを設定する例を示します。

```
switch(config)# logging server 192.168.2.253
```

次に、指定されたホスト名のリモート Syslog サーバで、重大度 5 以上のメッセージがログに記録されるように設定する例を示します。

```
switch(config)# logging server syslogA 5
```

関連コマンド

コマンド	説明
show logging server	設定済みの Syslog サーバを表示します。

logging timestamp

ロギング タイムスタンプの単位を設定するには、**logging timestamp** コマンドを使用します。ロギング タイムスタンプの単位をデフォルトにリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

logging timestamp {microseconds | milliseconds | seconds}

no logging timestamp {microseconds | milliseconds | seconds}

構文の説明

microseconds	ロギング タイムスタンプに使用する単位をマイクロ秒に指定します。デフォルトの単位は seconds です。
milliseconds	ロギング タイムスタンプに使用する単位をミリ秒に指定します。
seconds	ロギング タイムスタンプに使用する単位を秒に指定します。デフォルトの単位は seconds です。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

デフォルトでは、単位は秒です。

例

次に、ロギング タイムスタンプの単位をマイクロ秒に設定する例を示します。

```
switch(config)# logging timestamp microseconds
```

関連コマンド

コマンド	説明
show logging timestamp	ロギング タイムスタンプの設定を表示します。



N コマンド

この章では、N で始まるシステム管理コマンドについて説明します。

ntp

スイッチの Network Time Protocol (NTP; ネットワーク タイム プロトコル) ピアおよびサーバを設定するには、**ntp** コマンドを使用します。設定したピアおよびサーバを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
ntp {peer hostname | server hostname} [prefer] [use-vrf vrf-name]
```

```
no ntp {peer hostname | server hostname}
```

構文の説明

peer hostname	NTP ピアのホスト名または IP アドレスを指定します。
server hostname	NTP サーバのホスト名または IP アドレスを指定します。
prefer	(任意) このピア/サーバを優先ピア/サーバとして指定します。
use-vrf vrf-name	(任意) このピア/サーバに到達するために使用する Virtual Routing and Forwarding (VRF; 仮想ルーティングおよび転送) を指定します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。
4.0(1a)N1(1)	キーワード use-vrf がキーワード vrf の代わりに使用されます。キーワード vrf は、下位互換性のために維持されます。

使用上のガイドライン

複数のピア アソシエーションを指定できます。

例

次に、サーバとのサーバ アソシエーションを作成する例を示します。

```
switch(config)# ntp server ntp.cisco.com
```

次に、ピアとのピア アソシエーションを作成する例を示します。

```
switch(config)# ntp peer 192.168.10.0
```

次に、ピアとのアソシエーションを削除する例を示します。

```
switch(config)# no ntp peer 192.168.10.0
```

関連コマンド

コマンド	説明
ntp distribute	NTP の CFS 配信をイネーブルにします。
show ntp	NTP 情報を表示します。

ntp abort

処理中の Network Time Protocol (NTP; ネットワーク タイム プロトコル) Cisco Fabric Service (CFS) 配信セッションを廃棄するには、**ntp abort** コマンドを使用します。

ntp abort

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、処理中の NTP CFS 配信セッションを廃棄する例を示します。

```
switch(config)# ntp abort
```

関連コマンド

コマンド	説明
ntp distribute	NTP の CFS 配信をイネーブルにします。
show ntp	NTP 情報を表示します。

ntp commit

ファブリックで処理中の Network Time Protocol (NTP; ネットワーク タイム プロトコル) Cisco Fabric Service (CFS) 配信セッションについて、ペンディングの設定を適用するには、**ntp commit** コマンドを使用します。

ntp commit

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、変更をアクティブ NTP 設定にコミットする例を示します。

```
switch(config)# ntp commit
```

関連コマンド

コマンド	説明
ntp distribute	NTP の CFS 配信をイネーブルにします。
show ntp	NTP 情報を表示します。

ntp distribute

Network Time Protocol (NTP; ネットワーク タイム プロトコル) の Cisco Fabric Service (CFS) 配信をイネーブルにするには、**ntp distribute** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ntp distribute

no ntp distribute

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

ディセーブル

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

ファイバ チャネル タイマーの変更をファブリックに配信する前に、**ntp commit** コマンドを使用して、一時的な設定変更をアクティブ設定にコミットする必要があります。

例

次に、アクティブ NTP 設定をファブリックに配信する例を示します。

```
switch(config)# ntp distribute
```

関連コマンド

コマンド	説明
ntp commit	NTP 設定の変更をアクティブ設定にコミットします。
show ntp	NTP 情報を表示します。

ntp sync-retry

設定した Network Time Protocol (NTP; ネットワーク タイム プロトコル) サーバとの同期化を再試行するには、**ntp sync-retry** コマンドを使用します。

ntp sync-retry

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、設定した NTP サーバとの同期化を再試行する例を示します。

```
switch# ntp sync-retry
```

関連コマンド

コマンド	説明
ntp distribute	NTP の CFS 配信をイネーブルにします。
show ntp	NTP 情報を表示します。



S コマンド

この章では、S で始まるシステム管理コマンドについて説明します。

snmp-server community

SNMPv1 または SNMPv2c の Simple Network Management Protocol (SNMP; 簡易ネットワーク管理プロトコル) コミュニティを作成するには、**snmp-server community** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
snmp-server community com-name [group grp-name | ro | rw | use-acl acl-name]
```

```
no snmp-server community com-name [group grp-name | ro | rw | use-acl acl-name]
```

構文の説明

com-name	SNMP コミュニティ ストリング。名前は、最大 32 文字の英数字で指定できます。
group grp-name	(任意) コミュニティが属するグループを指定します。名前は、最大 32 文字まで指定できます。
ro	(任意) このコミュニティ ストリングで読み取り専用アクセスを指定します。
rw	(任意) このコミュニティ ストリングで読み取りと書き込みアクセスを指定します。
use-acl acl-name	(任意) アクセス コントロール リスト (ACL) を指定して、SNMP 要求にフィルタを適用します。名前は、最大 32 文字まで指定できます。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.2(1)N1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

Access Control List (ACL; アクセス コントロール リスト) をコミュニティに割り当てて、着信 SNMP 要求にフィルタを適用できます。割り当てた ACL により着信要求パケットが許可される場合、SNMP はその要求を処理します。ACL により要求が拒否される場合、SNMP はその要求を廃棄して、システム メッセージを送信します。

ACL の作成の詳細については、『Cisco Nexus 5000 シリーズ NX-OS Security Configuration Guide』を参照してください。ACL は、UDP および TCP を介する IPv4 および IPv6 の両方に適用されます。ACL を作成したら、ACL を SNMP コミュニティに割り当てます。

例

次に、SNMP コミュニティ ストリングを作成し、ACL をコミュニティに割り当て、SNMP 要求にフィルタを適用する例を示します。

```
switch(config)# snmp-server community public use-acl my_acl_for_public
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
<code>show snmp community</code>	SNMP コミュニティ スtring を表示します。

snmp-server contact

簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP) 連絡先 (sysContact) 情報を設定するには、**snmp-server contact** コマンドを使用します。連絡先情報を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

snmp-server contact [*text*]

no snmp-server contact [*text*]

構文の説明

<i>text</i>	(任意) システム接点情報を示す文字列。テキストは、最大 32 文字の英数字文字列で、スペースを含めることはできません。
-------------	--

コマンド デフォルト

システム接点 (sysContact) 文字列が設定されていません。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.1(3)N2(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、SNMP 連絡先を設定する例を示します。

```
switch(config)# snmp-server contact DialSystemOperatorAtBeeper#1235
switch(config)#
```

次に、SNMP 連絡先を削除する例を示します。

```
switch(config)# no snmp-server contact DialSystemOperatorAtBeeper#1235
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show snmp	SNMP に関する情報を表示します。
snmp-server location	システム ロケーション文字列を設定します。

snmp-server context

簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP) コンテキストと論理ネットワーク エンティティとのマッピングを設定するには、**snmp-server context** コマンドを使用します。コンテキストを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
snmp-server context context-name [instance instance-name] [vrf {vrf-name | default | management}] [topology topology-name]
```

```
no snmp-server context context-name [instance instance-name] [vrf {vrf-name | default | management}] [topology topology-name]
```

構文の説明

<i>context-name</i>	SNMP コンテキスト。名前は、最大 32 文字の英数字で指定できます。
instance <i>instance-name</i>	(任意) プロトコル インスタンスを指定します。名前は、最大 32 文字の英数字で指定できます。
vrf <i>vrf-name</i>	(任意) Virtual Routing and Forwarding (VRF; 仮想ルーティングおよび転送) インスタンスを指定します。名前は最大 32 文字の英数字で、大文字と小文字が区別されます。
default	デフォルト VRF を指定します。
management	管理 VRF を指定します。
topology <i>topology-name</i>	(任意) トポロジを指定します。名前は、最大 32 文字の英数字で指定できます。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.1(3)N2(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

SNMP コンテキストと論理ネットワーク エンティティ (プロトコル インスタンスや VRF) をマッピングするには、**snmp-server context** コマンドを使用します。

例

次に、public1 コンテキストをデフォルト VRF にマッピングする例を示します。

```
switch(config)# snmp-server context public1 vrf default
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show snmp	SNMP のステータスを表示します。
show snmp context	SNMP コンテキストに関する情報を表示します。

snmp-server enable traps

簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP) 通知をイネーブルにするには、**snmp-server enable traps** コマンドを使用します。SNMP 通知をディセーブルにするには、コマンドの **no** 形式を使用します。

snmp-server enable traps

```
[aaa [server-state-change] |
callhome [event-notify | smtp-send-fail] |
entity {entity_fan_status_change | entity_mib_change | entity_module_inserted |
entity_module_removed | entity_module_status_change | entity_power_out_change
| entity_power_status_change | entity_unrecognised_module} |
fcdomain |
fcns |
fcs |
fctrace |
fspf |
license [notify-license-expiry | notify-license-expiry-warning |
notify-licensefile-missing | notify-no-license-for-feature] |
link |
rf [redundancy_framework] |
rmon [fallingAlarm | hcFallingAlarm | hcRisingAlarm | risingAlarm] |
rscn |
snmp [authentication] |
vsan |
zone [default-zone-behavior-change | merge-failure | merge-success |
request-reject1 | unsupp-mem]]
```

no snmp-server enable traps

```
[aaa [server-state-change] |
callhome [event-notify | smtp-send-fail] |
entity {entity_fan_status_change | entity_mib_change | entity_module_inserted |
entity_module_removed | entity_module_status_change | entity_power_out_change
| entity_power_status_change | entity_unrecognised_module} |
fcdomain |
fcns |
fcs |
fctrace |
fspf |
license [notify-license-expiry | notify-license-expiry-warning |
notify-licensefile-missing | notify-no-license-for-feature] |
link |
rf [redundancy_framework] |
rmon [fallingAlarm | hcFallingAlarm | hcRisingAlarm | risingAlarm] |
rscn |
snmp [authentication] |
vsan |
zone [default-zone-behavior-change | merge-failure | merge-success |
request-reject1 | unsupp-mem]]
```

構文の説明

aaa	(任意) AAA サーバステート変更の通知をイネーブルにします。
server-state-change	(任意) AAA サーバステート変更を指定します。

callhome	(任意) Cisco Call Home 通知をイネーブルにします。
event-notify	(任意) Cisco Call Home 外部イベント通知を指定します。
smtp-send-fail	(任意) SMTP メッセージ送信失敗通知を指定します。
entity	(任意) モジュール ステータス、ファン ステータス、または電源ステータスの変更に関する通知をイネーブルにします。
entity_fan_status_change	(任意) エンティティ ファン ステータスの変更を指定します。
entity_mib_change	(任意) エンティティの MIB の変更を指定します。
entity_module_inserted	(任意) エンティティ モジュールの挿入を指定します。
entity_module_removed	(任意) エンティティ モジュールの削除を指定します。
entity_module_status_change	(任意) エンティティ モジュール ステータスの変更を指定します。
entity_power_out_change	(任意) エンティティ電源出力の変更を指定します。
entity_power_status_change	(任意) エンティティ電源ステータスの変更を指定します。
entity_unrecognised_module	(任意) エンティティの未認識モジュールを指定します。
fcdomain	(任意) ファイバチャネル ドメインの通知をイネーブルにします。
fcns	(任意) ネーム サーバの通知をイネーブルにします。
fcs	(任意) ファブリック コンフィギュレーション サーバの通知をイネーブルにします。
fctrace	(任意) N ポートへのルートの通知をイネーブルにします。
fspf	(任意) Fabric Shortest Path First (FSPF) の通知をイネーブルにします。
license	(任意) ライセンス マネージャの通知をイネーブルにします。
notify-license-expiry	(任意) ライセンスの有効期限の通知を指定します。
notify-license-expiry-warning	(任意) ライセンスの有効期限警告通知を指定します。
notify-licensefile-missing	(任意) ライセンス ファイルの不足通知を指定します。
notify-no-license-for-feature	(任意) 機能のライセンスがインストールされている必要がない場合に通知が送信されることを指定します。
link	(任意) アップリンクおよびダウンリンク インターフェイスの通知をイネーブルにします。
rf	(任意) 冗長フレームワークの通知をイネーブルにします。
redundancy_framework	(任意) 冗長フレームワーク (RF) スーパーバイザ スイッチオーバー MIB を指定します。
rmon	(任意) 上限アラーム、下限アラーム、および高容量アラームの通知をイネーブルにします。
fallingAlarm	(任意) RMON 下限アラームを指定します。
hcFallingAlarm	(任意) 高容量 RMON 下限アラームを指定します。
hcRisingAlarm	(任意) 高容量 RMON 上限アラームを指定します。
risingAlarm	(任意) RMON 上限アラームを指定します。
rscn	(任意) RSCN 通知をイネーブルにします。

snmp	(任意) SNMP 認証通知をイネーブルにします。
authentication	(任意) SNMP 認証トラップを指定します。
vsan	(任意) VSAN の通知をイネーブルにします。
zone	(任意) ゾーン通知をイネーブルにします。
default-zone-behavior-change	(任意) デフォルト ゾーン動作変更通知を指定します。
merge-failure	(任意) マージ失敗通知を指定します。
merge-success	(任意) マージ成功通知を指定します。
request-reject1	(任意) 要求拒否通知を指定します。
unsupp-mem	(任意) サポート対象外メンバー通知を指定します。

コマンド デフォルト すべての通知

コマンド モード グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.1(3)N2(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン **snmp-server enable traps** コマンドは、設定されている通知ホスト レシーバに応じて、トラップとインフォームの両方をイネーブルにします。

例 次に、サーバ ステート変更に関する SNMP 通知をイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# snmp-server enable traps aaa
switch(config)#
```

次に、すべての SNMP 通知をディセーブルにする例を示します。

```
switch(config)# no snmp-server enable traps
switch(config)#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	snmp-server enable traps link	リンク トラップの簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP) 通知をイネーブルにします。
	show snmp trap	イネーブルまたはディセーブルである SNMP 通知を表示します。

snmp-server enable traps link

リンク トラップの簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP) 通知をイネーブルにするには、**snmp-server enable traps link** コマンドを使用します。リンク トラップの SNMP 通知をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

snmp-server enable traps link [*notification-type*]

no snmp-server enable traps link [*notification-type*]

構文の説明

notification-type

(任意) イネーブルにする通知の種類。どの種類も指定されていない場合、デバイスで使用可能なすべての通知が送信されます。通知の種類には、次のいずれかのキーワードを指定できます。

- **IETF-extended-linkDown** : Internet Engineering Task Force (IETF) 拡張リンク ステート ダウン通知をイネーブルにします。
- **IETF-extended-linkUp** : IETF 拡張リンク ステート アップ通知をイネーブルにします。
- **cisco-extended-linkDown** : Cisco 拡張リンク ステート ダウン通知をイネーブルにします。
- **cisco-extended-linkUp** : Cisco 拡張リンク ステート アップ通知をイネーブルにします。
- **connUnitPortStatusChange** : 接続装置の全体的なステータスの通知をイネーブルにします。
- **delayed-link-state-change** : 遅延リンク ステート変更をイネーブルにします。
- **fcTrunkIfDownNotify** : ファイバ チャネル ファブリック 要素 (FCFE) リンク ステート ダウン通知をイネーブルにします。
- **fcTrunkIfUpNotify** : FCFE リンク ステート アップ通知をイネーブルにします。
- **fcot-inserted** : ファイバ チャネル光トランスミッタ (FCOT) ハードウェアが装着されたことを指定します。
- **fcot-removed** : FCOT が取り外されたことを指定します。
- **linkDown** : IETF リンク ステート ダウン通知をイネーブルにします。
- **linkUp** : IETF リンク ステート アップ通知をイネーブルにします。

コマンド デフォルト

ディセーブル

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.1(3)N2(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、デフォルトではディセーブルです。大部分の種類のお知らせはディセーブルになります。
notification-type 引数を指定せずにこのコマンドを入力すると、デフォルト設定により、このコマンドで制御できる全通知タイプがイネーブルになります。

例

次に、スイッチの SNMP リンク トラップ通知をイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# snmp-server enable traps link  
switch(config)#
```

次に、スイッチの SNMP リンク トラップ通知をディセーブルにする例を示します。

```
switch(config)# no snmp-server enable traps link  
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show snmp trap	イネーブルまたはディセーブルである SNMP 通知を表示します。

snmp-server enable traps vtp

VLAN トランッキング プロトコル (VTP) ドメインで簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP) 通知をイネーブルにするには、**snmp-server enable traps vtp** コマンドを使用します。VTP ドメインで SNMP 通知をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

snmp-server enable traps vtp

no snmp-server enable traps vtp

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

snmp-server enable traps コマンドは、設定されている通知ホスト レシーバに応じて、トラップとインフォームの両方をイネーブルにします。

例

次に、VTP ドメインで SNMP 通知をイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# snmp-server enable traps vtp
switch(config)#
```

次に、VTP ドメインですべての SNMP 通知をディセーブルにする例を示します。

```
switch(config)# no snmp-server enable traps vtp
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show snmp trap	イネーブルまたはディセーブルである SNMP 通知を表示します。
show vtp status	VTP 情報を表示します。

snmp-server globalEnforcePriv

すべてのユーザについて簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP) メッセージの暗号化を設定するには、**snmp-server globalEnforcePriv** コマンドを使用します。暗号化を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

snmp-server globalEnforcePriv

no snmp-server globalEnforcePriv

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

SNMP エージェントは、認証と暗号化なしで SNMPv3 メッセージを受け入れます。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.1(3)N2(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、すべてのユーザについて SNMP メッセージの暗号化を設定する例を示します。

```
switch(config)# snmp-server globalEnforcePriv
switch(config)#
```

次に、すべてのユーザについて SNMP メッセージの暗号化を無効にする例を示します。

```
switch(config)# no snmp-server globalEnforcePriv
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
snmp-server user	SNMP グループに新しいユーザを設定します。
show snmp sessions	現在の SNMP セッションを表示します。

snmp-server host

簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP) 通知操作の受信者を指定するには、**snmp-server host** コマンドを使用します。指定したホストを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
snmp-server host host-address {community-string
| filter-vrf {vrf-name | default | management}
| {informs | traps} {community-string | version {1 | 2c | 3 {auth | noauth | priv}}}
community-string [udp-port port]}
| version {1 | 2c | 3 {auth | noauth | priv}}} community-string [udp-port port]}
```

```
no snmp-server host host-address {community-string
| filter-vrf {vrf-name | default | management}
| {informs | traps} {community-string | version {1 | 2c | 3 {auth | noauth | priv}}}
community-string [udp-port port]}
| version {1 | 2c | 3 {auth | noauth | priv}}} community-string [udp-port port]}
```

構文の説明

<i>host-address</i>	ホストの名前またはインターネットアドレス。
<i>community-string</i>	通知操作で送信される文字列。最大 32 文字の英数字を入力できます。 snmp-server host コマンドを使用する前に snmp-server community コマンドを使用して、この文字列を定義することを推奨します。
filter-vrf <i>vrf-name</i>	仮想ルーティング/転送 (VRF) インスタンスを指定します。名前は最大 32 文字の英数字で、大文字と小文字が区別されます。
default	デフォルト VRF を指定します。
management	管理 VRF を指定します。
informs	このホストに SNMP インフォームを送信します。
traps	SNMP トラップをホストに送信します。
version	トラップの送信に使用する SNMP のバージョンを指定します。最も安全なモデルはバージョン 3 です。このバージョンでは、 priv キーワードを使用してパケットを暗号化できるためです。 version キーワードを使用する場合は、次のいずれかを指定する必要があります。 <ul style="list-style-type: none"> • 1 : SNMPv1。 • 2c : SNMPv2C • 3 : SNMPv3。 version 3 キーワードのあとには次の 3 つのオプションのキーワードを使用できます。 <ul style="list-style-type: none"> – auth : Message Digest 5 (MD5) および Secure Hash Algorithm (SHA) パケット認証をイネーブルにします。 – noauth (デフォルト) : noAuthNoPriv セキュリティ レベル。これは、auth、noauth、または priv キーワードが指定されていない場合のデフォルトです。 – priv : データ暗号規格 (DES) パケット暗号化 (「プライバシー」とも呼ばれます) をイネーブルにします。
udp-port <i>port</i>	(任意) 使用するホストの UDP ポートを指定します。ポート範囲は 0 ~ 65535 です。

コマンド デフォルト ディセーブル

コマンド モード グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.1(3)N2(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン SNMP 通知は、トラップまたは情報要求として送信できます。トラップを受信しても受信側は確認応答を送信しないため、トラップは信頼できません。送信側では、トラップが受信されたかどうかを判別できません。ただし、情報要求を受信した SNMP エンティティは、SNMP 応答 PDU を使用してメッセージに確認応答します。送信側が応答を受信しなかった場合は、再び情報要求を送信できます。このため、インフォームは、目的の宛先に到達できる可能性が高くなります。

例 次に、IPv4 アドレス 192.168.0.10 で指定されたホストに SNMP トラップを送信する例を示します。コミュニティ スtring は my_acl_for_public として定義されます。

```
switch(config)# snmp-server community public use-acl my_acl_for_public
switch(config)# snmp-server host 192.168.0.10 my_acl_for_public
switch(config)#
```

次に、コミュニティ スtring my_acl_for_public を使用してホスト myhost.cisco.com にすべての情報要求を送信する例を示します。

```
switch(config)# snmp-server enable traps
switch(config)# snmp-server host myhost.cisco.com informs version 2c my_acl_for_public
switch(config)#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show snmp host	SNMP ホストに関する情報を表示します。

snmp-server location

簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP) システム ロケーション文字列を設定するには、**snmp-server location** コマンドを使用します。ロケーション文字列を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

snmp-server location [*text*]

no snmp-server location [*text*]

構文の説明

text (任意) システム ロケーション情報を示す文字列。

コマンド デフォルト

システム ロケーション文字列の設定なし。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.1(3)N2(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、システム ロケーション文字列を設定する例を示します。

```
switch(config)# snmp-server location Building 3/Room 21
switch(config)#
```

次に、システム ロケーション文字列を削除する例を示します。

```
switch(config)# no snmp-server location Building 3/Room 21
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
snmp-server contact	SNMP システム接点 (sysContact) 文字列を設定します。

snmp-server mib community-map

簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP) コンテキストをプロトコル インスタンスや VRF などの論理ネットワーク エンティティにマッピングするように設定するには、**snmp-server mib community-map** コマンドを使用します。マッピングを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

snmp-server mib community-map *community-string* **context** *context-name*

no snmp-server mib community-map *community-string* **context** *context-name*

構文の説明

<i>community-string</i>	通知操作で送信される文字列。最大 32 文字の英数字を入力できます。 snmp-server mib community-map コマンドを使用する前に snmp-server community コマンドを使用して、この文字列を定義することを推奨します。
context	論理ネットワーク エンティティにマッピングする SNMP コンテキストを指定します。
<i>context-name</i>	SNMP コンテキスト。名前は、最大 32 文字の英数字で指定できます。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.1(3)N2(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、**my_acl_for_public** という名前の SNMPv2c コミュニティを SNMP コンテキスト **public1** にマッピングする例を示します。

```
switch(config)# snmp-server mib community-map my_acl_for_public context public1  
switch(config)#
```

次に、SNMPv2c コミュニティの SNMP コンテキストへのマッピングを削除する例を示します。

```
switch(config)# no snmp-server mib community-map my_acl_for_public context public1  
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
snmp-server community	SNMP コミュニティを設定します。
snmp-server context	SNMP コンテキストを設定します。
show snmp	SNMP のステータスを表示します。

snmp-server tcp-session

TCP セッションでの簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP) のワンタイム認証をイネーブルにするには、**snmp-server tcp-session** コマンドを使用します。ワンタイム認証をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

snmp-server tcp-session [auth]

no snmp-server tcp-session [auth]

構文の説明

auth	(任意) TCP セッションで SNMP のワンタイム認証をイネーブルにすることを指定します。
-------------	---

コマンド デフォルト

ディセーブル

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.1(3)N2(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、TCP セッションでの SNMP のワンタイム認証をイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# snmp-server tcp-session auth
switch(config)#
```

次に、TCP セッションでの SNMP のワンタイム認証をディセーブルにする例を示します。

```
switch(config)# no snmp-server tcp-session auth
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show snmp	SNMP のステータスを表示します。

snmp-server user

簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP) グループに新しいユーザを設定するには、**snmp-server user** コマンドを使用します。SNMP グループからユーザを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
snmp-server user username [groupname] [auth {md5 | sha} auth-password [{engineID
engine-ID | localizedkey | priv {priv-password | aes-128}}]]
```

```
no snmp-server user
```

構文の説明

<i>username</i>	エージェントに接続する、ホスト上のユーザの名前。この名前には最大 32 文字までの英数字を指定できます。
<i>groupname</i>	(任意) ユーザが関連付けられているグループの名前。この名前には最大 32 文字までの英数字を指定できます。
auth	(任意) セッションで認証レベルの設定を開始することを指定します。
md5	(任意) セッションで HMAC-MD5-96 認証レベルを使用することを指定します。
sha	(任意) セッションで HMAC-SHA-96 認証レベルを使用することを指定します。
<i>auth-password</i>	(任意) エージェントがホストからパケットを受信できるようにする、ユーザの認証パスワード。パスワードには最大 130 文字まで使用できます。
engineID <i>engine-ID</i>	(任意) SNMP エンジン ID を指定します。
localizedkey	(任意) パスワードがローカライズされたキー フォーマットかどうかを指定します。
priv	(任意) プライバシー認証レベルの設定セッションを開始するオプション。
<i>priv-password</i>	(任意) ホストがエージェントに送信するメッセージの内容を暗号化できるようにする、ユーザのプライバシー パスワード。パスワードには最大 130 文字まで使用できます。
aes-128	(任意) セッションでプライバシーに 128 ビット AES アルゴリズムを使用することを指定します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.1(3)N2(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、**auth** および **priv** パラメータを使用して **authuser** という名前の SNMP ユーザを設定する例を示します。

■ snmp-server user

```
switch(config)# snmp-server user authuser publicsecurity auth sha shapwd priv aes-128  
switch(config)#
```

次に、SNMP ユーザを削除する例を示します。

```
switch(config)# no snmp-server user authuser  
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
<code>show snmp user</code>	1 人または複数の SNMP ユーザに関する情報を表示します。

snmp trap link-status

インターフェイス上での簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP) リンク トラップ生成をイネーブルにするには、**snmp trap link-status** コマンドを使用します。SNMP リンク トラップをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

snmp trap link-status

no snmp trap link-status

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

イネーブル

コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション モード
仮想イーサネット インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1)	このコマンドが追加されました。
5.0(3)N1(1)	レイヤ 3 インターフェイスのサポートが追加されました。
5.1(3)N1(1)	仮想イーサネット インターフェイスのサポートが追加されました。

使用上のガイドライン

デフォルトでは、SNMP リンク トラップは、レイヤ 2 インターフェイスがアップまたはダウンしたときに送信されます。個々のインターフェイスの SNMP リンク トラップ通知をディセーブルにできます。これにより、フラッピング インターフェイス (アップとダウン間の移行を繰り返すインターフェイス) に関する通知を制限できます。

このコマンドは、次のインターフェイスで使用できます。

- レイヤ 2 インターフェイス
- レイヤ 3 インターフェイス



(注) インターフェイスをレイヤ 3 インターフェイスとして設定するには、**no switchport** コマンドを使用します。

- 仮想イーサネット インターフェイス

例

次に、特定のレイヤ 2 インターフェイスの SNMP リンクステート トラップをディセーブルにする例を示します。

```
switch(config)# interface ethernet 1/1
switch(config-if)# no snmp trap link-status
switch(config-if)#
```

snmp trap link-status

次に、特定のレイヤ 3 インターフェイスの SNMP リンクステート トラップをイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# interface ethernet 1/5
switch(config-if)# no switchport
switch(config-if)# snmp trap link-status
switch(config-if)#
```

次に、特定のレイヤ 2 インターフェイスの SNMP リンクステート トラップをイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# interface ethernet 1/1
switch(config-if)# snmp trap link-status
switch(config-if)#
```

次に、特定の仮想イーサネット インターフェイスの SNMP リンクステート トラップをイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# interface vethernet 1
switch(config-if)# snmp trap link-status
switch(config-if)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
interface vethernet	仮想イーサネット インターフェイスを設定します。
no switchport	インターフェイスを、レイヤ 3 ルーテッドインターフェイスとして設定します。
show snmp trap	イネーブルまたはディセーブルである SNMP 通知を表示します。



show コマンド

この章では、システム管理 **show** コマンドについて説明します。

show diagnostic bootup level

スイッチ上の現在のブートアップ診断レベルを表示するには、**show diagnostic bootup level** コマンドを使用します。

show diagnostic bootup level

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、現在のブートアップ診断レベルを表示する例を示します。

```
switch# show diagnostic bootup level

Current bootup diagnostic level: complete

switch#
```

関連コマンド

コマンド	説明
diagnostic bootup level	より高速なモジュールのブートアップ時間に対するブートアップ診断レベルを設定します。
show diagnostic result	診断テストの結果を表示します。

show diagnostic result

診断テストの結果を表示するには、**show diagnostic result** コマンドを使用します。

show diagnostic result module {*module-no* | **all**}

構文の説明	構文	説明
	module	診断結果が表示されるモジュールを指定します。
	<i>module-no</i>	モジュール番号。有効値は、1～3 です。
	all	すべてのモジュールの診断結果を表示します。

コマンド デフォルト なし

コマンド モード EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1)	このコマンドが追加されました。

例 次に、指定したモジュールの診断結果を表示する例を示します。

```
switch# show diagnostic result module 1

Current bootup diagnostic level: complete

Module 1: 48X10GE/Supervisor SerialNo : JAF1339ANGH

Overall Diagnostic Result for Module 1 : PASS
Diagnostic level at card bootup: complete

Test results: (. = Pass, F = Fail, I = Incomplete,
              U = Untested, A = Abort)

    1) TestUSBFlash -----> .
    2) TestSPROM -----> .
    3) TestPCIE -----> .
    4) TestLED -----> .
    5) TestOBFL -----> .
    6) TestNVRAM -----> .
    7) TestPowerSupply -----> F
    8) TestTemperatureSensor -----> .
    9) TestFan -----> .
   10) TestVoltage -----> .
   11) TestGPIO -----> .
   12) TestInbandPort -----> .
   13) TestManagementPort -----> .
   14) TestMemory -----> .
   15) TestFabricEngine :

Eth      1  2  3  4  5  6  7  8  9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24
Port -----
      . . . . .
```

show diagnostic result

```
Eth 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48
Port -----
```

```
. . . . .
```

```
16) TestFabricPort :
```

```
Eth 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24
Port -----
```

```
. . . . .
```

```
Eth 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48
Port -----
```

```
. . . . .
```

```
17) TestForwardingEngine :
```

```
Eth 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24
Port -----
```

```
. . . . .
```

```
Eth 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48
Port -----
```

```
. . . . .
```

```
18) TestForwardingEnginePort :
```

```
Eth 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24
Port -----
```

```
. . . . .
```

```
Eth 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48
Port -----
```

```
. . . . .
```

```
19) TestFrontPort :
```

```
Eth 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24
Port -----
```

```
. . . . .
```

```
Eth 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48
Port -----
```

```
. . . . .
```

```
switch#
```

関連コマンド

コマンド	説明
diagnostic bootup level	より高速なモジュールのブートアップ時間に対するブートアップ診断レベルを設定します。
show diagnostic bootup level	起動時診断レベルを表示します。

show hosts

ドメイン ネーム サーバ (DNS) のネーム サーバおよびドメイン名を表示するには、**show hosts** コマンドを使用します。

show hosts

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、ホスト名の解決に使用する DNS サーバの IP アドレスを表示する例を示します。

```
switch# show hosts
DNS lookup enabled
Default domain for vrf:default is mysite.com
Name/address lookup uses domain service
Name servers are 255.255.255.255
```

Vrf	Use-vrf	Token	Config
default	management	domain	mysite.com
default	management	add. domain(s)	mysite2.com

Host	Address
switch#	

関連コマンド

コマンド	説明
ip domain-list	ドメインのリストを定義します。
ip domain lookup	DNS ベースのホスト名からアドレスへの変換をイネーブルにします。
ip domain-name	ネーム サーバを設定します。

show ip dns source-interface

ドメイン ネーム サーバ (DNS) ドメイン ルックアップ用に設定された送信元インターフェイスを表示するには、**show ip dns source-interface** コマンドを使用します。

```
show ip dns source-interface [vrf {vrf-name | all | default | management}]
```

構文の説明

vrf	(任意) 仮想ルーティング/転送 (VRF) インスタンスに関する情報を表示します。
<i>vrf-name</i>	(任意) VRF 名です。名前は最大 32 文字で、大文字と小文字が区別されません。
all	(任意) すべての VRF インスタンスを示します。
default	(任意) デフォルトの VRF の情報を表示します。
management	(任意) 管理 VRF 情報を表示します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.1(3)NI(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例

次に、DNS ドメイン ルックアップ用に設定された送信元インターフェイスを表示する例を示します。

```
switch# show ip dns source-interface
VRF Name          Interface
default           Ethernet1/5
switch#
```

関連コマンド

コマンド	説明
ip domain-lookup	DNS ルックアップ機能をイネーブルにします。
ip dns source-interface	DNS ドメイン ルックアップ用のインターフェイスを設定します。

show logging console

コンソール ログिंगの設定を表示するには、**show logging console** コマンドを使用します。

show logging console

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、コンソール ログिंगの設定を表示する例を示します。

```
switch# show logging console
```

関連コマンド

コマンド	説明
logging console	コンソールへのログिंगを設定します。

show logging info

ロギングの設定を表示するには、**show logging info** コマンドを使用します。

show logging info

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、ロギングの設定を表示する例を示します。

```
switch# show logging info
```

関連コマンド

コマンド	説明
logging level	定義済みファシリティからのメッセージ ロギングをイネーブルにします。

show logging last

ログ ファイルの末尾から指定数の行を表示するには、**show logging last** コマンドを使用します。

show logging last *number*

構文の説明	<i>number</i>	表示する行数を 1 ~ 9999 の範囲で入力します。				
コマンド デフォルト	なし					
コマンド モード	EXEC モード					
コマンド履歴	<table><thead><tr><th>リリース</th><th>変更内容</th></tr></thead><tbody><tr><td>4.0(0)N1(1a)</td><td>このコマンドが追加されました。</td></tr></tbody></table>	リリース	変更内容	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。	
リリース	変更内容					
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。					
例	次に、ログ ファイルの最後の 42 行を表示する例を示します。 <pre>switch# show logging last 42</pre>					
関連コマンド	<table><thead><tr><th>コマンド</th><th>説明</th></tr></thead><tbody><tr><td>logging level</td><td>定義済みファシリティからのメッセージ ロギングをイネーブルにします。</td></tr></tbody></table>	コマンド	説明	logging level	定義済みファシリティからのメッセージ ロギングをイネーブルにします。	
コマンド	説明					
logging level	定義済みファシリティからのメッセージ ロギングをイネーブルにします。					

show logging level

ファシリティ ログイング重大度の設定を表示するには、**show logging level** コマンドを使用します。

show logging level [*facility*]

構文の説明

facility (任意) ログイング ファシリティ。ファシリティのリストを付録 A「システムメッセージ ログイング ファシリティ」の表 A-1 に示します。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。
5.0(3)N1(1)	マルチキャストおよびユニキャスト ルーティング機能のサポートが追加されました。
5.0(3)N2(1)	Flex Link および Fibre Channel over Ethernet (FCoE) の N ポート バーチャライザ (NPV) のサポートが追加されました。

例

次に、EtherChannel ログイング重大度の設定を表示する例を示します。

```
switch# show logging level port-channel
```

次に、Flex Link ログイング重大度の設定を表示する例を示します。

```
switch# show logging level flexlink
Facility          Default Severity      Current Session Severity
-----          -
Flexlink          2                      5

0(emergencies)    1(alerts)              2(critical)
3(errors)         4(warnings)            5(notifications)
6(information)    7(debugging)
```

```
switch#
```

次に、FCoE NPV ログイング重大度の設定を表示する例を示します。

```
switch# show logging level fcoe_mgr
Facility          Default Severity      Current Session Severity
-----          -
fcoe_mgr          2                      3

0(emergencies)    1(alerts)              2(critical)
3(errors)         4(warnings)            5(notifications)
6(information)    7(debugging)
```

```
switch#
```

関連コマンド

コマンド	説明
logging level	ファシリティ ログ レベルを設定します。

show logging logfile

入力した範囲内でタイムスタンプが設定されているログ ファイルのメッセージを表示するには、**show logging logfile** コマンドを使用します。

```
show logging logfile [start-time yyyy mmm dd hh:mm:ss] [end-time yyyy mmm dd
hh:mm:ss]
```

構文の説明

start-time yyyy mmm dd hh:mm:ss	(任意) 開始時間を yyyy mmm dd hh:mm:ss の形式で指定します。月 (mmm) フィールドに 3 文字を、年 (yyyy)、日 (dd) フィールドに数字を、および時刻 (hh:mm:ss) フィールドにコロンで区切られた数字を使用します。
end-time yyyy mmm dd hh:mm:ss	(任意) 終了時間を yyyy mmm dd hh:mm:ss の形式で指定します。月 (mmm) フィールドに 3 文字を、年 (yyyy)、日 (dd) フィールドに数字を、および時刻 (hh:mm:ss) フィールドにコロンで区切られた数字を使用します。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

終了時間を入力しないと、現在の時間が使用されます。

例

次に、示されている範囲内でタイムスタンプが設定されているログ ファイルのメッセージを表示する例を示します。

```
switch# show logging logfile start-time 2008 mar 11 12:10:00
```

関連コマンド

コマンド	説明
logging logfile	ログ ファイルへのロギングを設定します。

show logging module

モジュール ログिंगの設定を表示するには、**show logging module** コマンドを使用します。

show logging module

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、モジュール ログिंगの設定を表示する例を示します。

```
switch# show logging module
```

関連コマンド

コマンド	説明
logging module	モジュール ログिंगを設定します。

show logging monitor

モニタ ロギングの設定を表示するには、**show logging monitor** コマンドを使用します。

show logging monitor

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、モニタ ロギングの設定を表示する例を示します。

```
switch# show logging monitor
```

関連コマンド

コマンド	説明
logging monitor	モニタにロギングを設定します。

show logging nvram

Nonvolatile Random Access Memory (NVRAM; 不揮発性 RAM) ログのメッセージを表示するには、**show logging nvram** コマンドを使用します。

show logging nvram [*last number-lines*]

構文の説明	last number-lines (任意) 表示する行数を入力します。1 ~ 100 の範囲で指定します。				
コマンド デフォルト	なし				
コマンド モード	EXEC モード				
コマンド履歴	<table><thead><tr><th>リリース</th><th>変更内容</th></tr></thead><tbody><tr><td>4.0(0)N1(1a)</td><td>このコマンドが追加されました。</td></tr></tbody></table>	リリース	変更内容	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。
リリース	変更内容				
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。				
例	次に、NVRAM ログの最後の 20 のメッセージを表示する例を示します。 <pre>switch# show logging nvram last 20</pre>				
関連コマンド	<table><thead><tr><th>コマンド</th><th>説明</th></tr></thead><tbody><tr><td>logging level</td><td>定義済みファシリティからのメッセージ ロギングをイネーブルにします。</td></tr></tbody></table>	コマンド	説明	logging level	定義済みファシリティからのメッセージ ロギングをイネーブルにします。
コマンド	説明				
logging level	定義済みファシリティからのメッセージ ロギングをイネーブルにします。				

show logging onboard

エラーのタイプに基づいてオンボード ログング情報を表示するには、**show logging onboard** コマンドを使用します。

```
show logging onboard {boot-uptime | device-version | endtime | environmental-history
| exception-log | kernel-trace | obfl-history | obfl-logs | stack-trace | starttime |
status} [> file | | type]
```

構文の説明

boot-uptime	Onboard Failure Logging (OBFL; オンボード障害ログング) ブートと動作時間情報を表示します。
device-version	OBFL デバイスのバージョン情報を表示します。
endtime	<i>mm/dd/yy-HH:MM:SS</i> 形式で指定された終了時刻までの OBFL ログを表示します。
environmental-history	OBFL 環境履歴を表示します。
exception-log	OBFL 例外ログを表示します。
kernel-trace	OBFL カーネル トレース情報を表示します。
obfl-history	OBFL 履歴情報を表示します。
obfl-logs	OBFL テクニカル サポート ログ情報を表示します。
stack-trace	OBFL カーネル スタック トレース情報を表示します。
starttime	<i>mm/dd/yy-HH:MM:SS</i> 形式で指定された開始時刻からの OBFL ログを表示します。
status	OBFL ステータスがイネーブルであるかディセーブルであるかを表示します。
> file	(任意) 出力をファイルにリダイレクトします。詳細情報については、「使用上のガイドライン」の項を参照してください。
 type	(任意) 出力にフィルタを適用します。詳細情報については、「使用上のガイドライン」の項を参照してください。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

starttime および **endtime** キーワードの日付と時刻の引数は、月/日/年 (*mm/dd/yy*) として入力し、時刻がハイフンの後に 24 時間形式で時間:分:秒 (*HH:MM:SS*) で続きます。次に例を示します。

- **starttime** 03/17/08-15:01:57
- **endtime** 03/18/08-15:04:57

file の有効値は、次のとおりです。

- **bootflash:**
- **ftp:**
- **scp:**
- **sftp:**
- **tftp:**
- **volatile:**

type の有効値は、次のとおりです。

- **begin [-i] [-x] [word]** : テキストに一致する行で始まります。
 - **-i** : 文字列を比較するときに、大文字小文字の違いを無視します。
 - **-x** : 行全体が一致する行だけを出力します。
 - **word** : 表現を指定します。
- **count [> file || type]** : 一致する行をカウントします。
- **egrep | grep print-match** : Egrep または Grep です。Egrep は、Grep よりも高度な正規表現の構文を使用して、一致するテキストの行を検索します。Grep は 1 つ以上の正規表現に一致するテキストの行を検索し、一致する行だけを出力します。
 - **-A num** : すべての一致行の後に、指定した行数のコンテキストを出力します。有効な範囲は、1 ~ 999 です。
 - **-B num** : すべての一致行の前に、指定した行数のコンテキストを出力します。有効な範囲は、1 ~ 999 です。
 - **-c** : 一致行の合計数だけを出力します。
 - **-i** : 文字列を比較するときに、大文字小文字の違いを無視します。
 - **-n** : 各行番号の後にそれぞれの一致内容を出力します。
 - **-v** : *word* 引数に一致するものがない行だけを出力します。
 - **-w** : 語が完全に一致する行だけを出力します。
 - **-x** : 行全体が一致する行だけを出力します。
 - **word** : 表現を指定します。
- **exclude [-i] [-x] [word]** : テキストに一致する行を除外します。
 - **-i** : 文字列を比較するときに、大文字小文字の違いを無視します。
 - **-x** : 行全体が一致する行だけを出力します。
 - **word** : 表現を指定します。
- **head [-n num]** : ストリーム エディタ。オプションの **-n num** キーワードと引数を使用すると、出力する行数を指定できます。有効な範囲は、0 ~ 2147483647 です。
- **include [-i] [-x] [word]** : テキストに一致する行を含めます。
 - **-i** : 文字列を比較するときに、大文字小文字の違いを無視します。
 - **-x** : 行全体が一致する行だけを出力します。
 - **word** : 表現を指定します。
- **last [num]** : 出力する最後の行を表示します。オプションの *num* で、出力する行数を指定します。有効な範囲は、0 ~ 9999 です。
- **less [-E | -d]** : ファイルの最後で終了します。

- **-E** : (任意) ファイルの最後で終了します。
- **-d** : (任意) ダム ターミナルを指定します。
- **no-more** : コマンド出力の割り付けをオフにします。
- **sed command** : ストリーム エディタ
- **wc** : 語、行、文字数をカウントします。
 - **-c** : (任意) 出力する文字数を指定します。
 - **-l** : (任意) 出力する行数を指定します。
 - **-w** : (任意) 出力する語数を指定します。
 - **>** : ファイルにリダイレクトします。
 - **|** : フィルタにコマンド出力をパイプします。

このコマンドを使用すると、システム ハードウェアから OBFL データを表示できます。OBFL 機能はデフォルトでイネーブルになっており、Cisco ルータまたはスイッチにインストールされているハードウェア カードまたはモジュールの問題の診断に役立つ動作温度、ハードウェア動作時間、中断、その他の重要なイベントとメッセージを記録します。データのログは、不揮発性メモリに格納されるファイルに作成されます。オンボードハードウェアが起動すると、監視されている各領域で最初のレコードが作成され、後続のレコードの基準値となります。

OBFL 機能は、継続的なレコードの収集と古い (履歴) レコードのアーカイブで循環更新スキームを提供し、システムに関する正確なデータを保証します。データは、測定と継続ファイルのサンプルのスナップショットを表示する継続情報の形式、または収集したデータに関する詳細を提供する要約情報の形式のいずれかで記録されます。履歴データが利用できない場合は、「No historical data to display」というメッセージが表示されます。

例 次に、OBFL ブートと動作時間情報を表示する例を示します。

```
switch# show logging onboard boot-uptime
Sun Nov  9 06:11:59 2008:  Boot Record
-----
Boot Time.....:  Sun Nov  9 06:11:58 2008
Slot Number.....:  1
Serial Number.....:  FLC12280050
Bios Version.....:  v1.2.0(06/19/08)
Firmware Version...:  4.0(1a)N1(1) [build 4.0(1a)N1(1)]
```

表 1 に、この出力で表示される重要なフィールドの説明を示します。

表 1 show logging onboard boot-uptime コマンドの出力

フィールド	説明
Boot Time	ブートが発生した時刻
Slot Number	スロット番号。
Serial Number	モジュールのシリアル番号
Bios Version	プライマリ Binary Input and Output System (BIOS) のバージョン
Firmware Version	ファームウェアのバージョン

次に、OBFL ロギング デバイス情報を表示する例を示します。

```
switch# show logging onboard device-version
```

```

-----
OBFL Data for
  Module: 1
-----

Device Version Record
-----
Timestamp                Device Name      Instance Hardware Software
                        Num      Version  Version
-----
Sun Nov  3 07:07:00 2008   GATOS                2          2          0
Sun Nov  3 07:07:00 2008   GATOS                3          2          0
Sun Nov  3 07:07:00 2008   GATOS                4          2          0
Sun Nov  3 07:07:00 2008   GATOS                5          2          0
Sun Nov  3 07:07:00 2008   GATOS                6          2          0
Sun Nov  3 07:07:00 2008   GATOS                7          2          0
Sun Nov  3 07:07:00 2008   GATOS                8          2          0
Sun Nov  3 07:07:00 2008   GATOS                9          2          0
Sun Nov  3 07:07:00 2008   GATOS               10          2          0
Sun Nov  3 07:07:00 2008   GATOS               11          2          0
Sun Nov  3 07:07:00 2008   GATOS               12          2          0
Sun Nov  3 07:07:00 2008   GATOS               13          2          0
Mon Nov  4 00:15:08 2008   ALTOS                0          2          0
Mon Nov  4 00:15:08 2008   GATOS                0          2          0
Mon Nov  4 00:15:08 2008   GATOS                1          2          0
Mon Nov  4 00:15:08 2008   GATOS                2          2          0

```

表 2 に、この出力で表示される重要なフィールドの説明を示します。

表 2 show logging onboard device-version コマンドの出力

フィールド	説明
Timestamp	曜日、日付、時刻
Device Name	デバイス名。
Instance Num	インスタンス数
Hardware Version	ハードウェア デバイスのバージョン
Software Version	ソフトウェア デバイスのバージョン

次に、OBFL 履歴情報を表示する例を示します。

```
switch# show logging onboard obfl-history
```

show logging onboard obfl-history コマンドは、次の情報を表示します。

- OBFL が手動でディセーブルにされたときのタイムスタンプ
- OBFL が手動でイネーブルにされたときのタイムスタンプ
- OBFL データが手動でクリアにされたときのタイムスタンプ

次に、OBFL カーネル スタック トレース情報を表示する例を示します。

```
switch# show logging onboard stack-trace
```

show logging onboard stack-trace コマンドは、次の情報を表示します。

- 秒単位の時間
- ミリ秒単位の時間
- エラーを説明する文字列

■ show logging onboard

- 現在のプロセス名と ID
- カーネル ジフイー
- スタック トレース

関連コマンド

コマンド	説明
clear logging onboard	永続ログの OBFL エントリをクリアします。
hw-module logging onboard	エラーのタイプに基づいて OBFL エントリをイネーブルまたはディセーブルにします。

show logging pending

Syslog サーバの設定に対する保留中の変更を表示するには、**show logging pending** コマンドを使用します。

show logging pending

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、Syslog サーバの設定に対する保留中の変更を表示する例を示します。

```
switch# show logging pending
switch#
```

関連コマンド

コマンド	説明
logging abort	Syslog サーバ設定に対する保留中の変更をキャンセルします。

show logging pending-diff

Syslog サーバの現在の設定と保留中の変更との差異を表示するには、**show logging pending-diff** コマンドを使用します。

show logging pending-diff

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、Syslog サーバの現在の設定と保留中の変更との差異を表示する例を示します。

```
switch# show logging pending-diff
switch#
```

関連コマンド

コマンド	説明
logging abort	Syslog サーバ設定に対する保留中の変更をキャンセルします。

show logging session status

ロギングセッションステータスを表示するには、**show logging session status** コマンドを使用します。

show logging session status

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、ロギングセッションステータスを表示する例を示します。

```
switch# show logging session status
```

関連コマンド

コマンド	説明
logging level	定義済みファシリティからのメッセージロギングをイネーブルにします。

show logging server

Syslog サーバの設定を表示するには、**show logging server** コマンドを使用します。

show logging server

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、Syslog サーバの設定を表示する例を示します。

```
switch# show logging server
```

関連コマンド

コマンド	説明
logging server	リモート Syslog サーバを設定します。

show logging status

ロギング ステータスを表示するには、**show logging status** コマンドを使用します。

show logging status

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、ロギング ステータスを表示する例を示します。

```
switch# show logging status
Fabric Distribute      : Enabled
Session State         : IDLE
switch#
```

関連コマンド

コマンド	説明
logging distribute	Cisco Fabric Service (CFS) インフラストラクチャを使用して、ネットワーク スイッチへの Syslog サーバ設定の配布をイネーブルにします。

show logging timestamp

ロギング タイムスタンプの設定を表示するには、**show logging timestamp** コマンドを使用します。

show logging timestamp

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、ロギング タイムスタンプの設定を表示する例を示します。

```
switch# show logging timestamp
```

関連コマンド

コマンド	説明
logging timestamp	ロギング タイムスタンプの細かさを設定します。

show ntp peer-status

Network Time Protocol (NTP; ネットワーク タイム プロトコル) ピアのステータスを表示するには、**show ntp peer-status** コマンドを使用します。

show ntp peer-status

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、NTP のピア ステータスを表示する例を示します。

```
switch(config)# show ntp peer-status
```

関連コマンド

コマンド	説明
show ntp peers	NTP ピアに関する情報を表示します。

show ntp peers

Network Time Protocol (NTP; ネットワーク タイム プロトコル) ピアに関する情報を表示するには、**show ntp peers** コマンドを使用します。

show ntp peers

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、NTP ピアに関する情報を表示する例を示します。

```
switch(config)# show ntp peers
```

関連コマンド

コマンド	説明
show ntp peer-status	NTP ピアに関するステータス情報を表示します。

show ntp statistics

Network Time Protocol (NTP; ネットワーク タイム プロトコル) の統計情報を表示するには、**show ntp statistics** コマンドを使用します。

```
show ntp statistics {io | local | memory | peer} {ipaddr address | name name1 [..nameN]}
```

構文の説明

io	入出力統計情報を表示します。
local	ローカル NTP により保持されているカウンタを表示します。
memory	メモリ コードに関連する統計カウンタを表示します。
peer	ピアのピア単位の統計カウンタを表示します。
ipaddr address	設定した IPv4 または IPv6 アドレスのピアの統計情報を表示します。IPv4 アドレスの形式は、ドット付き 10 進数 x.x.x.x です。IPv6 アドレスの形式は、16 進数 A:B::C:D です。
name name1	指定したピアの統計情報を表示します。
..nameN	(任意) 1 つ以上の指定ピアの統計情報を表示します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、NTP の統計情報を表示する例を示します。

```
switch(config)# show ntp statistics local
```

関連コマンド

コマンド	説明
clear ntp statistics	NTP 統計情報をクリアします。

show ntp timestamp-status

Network Time Protocol (NTP; ネットワーク タイム プロトコル) タイムスタンプ情報を表示するには、**show ntp timestamp-status** コマンドを使用します。

show ntp timestamp-status

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、NTP タイムスタンプのステータスを表示する例を示します。

```
switch(config)# show ntp timestamp-status
```

関連コマンド

コマンド	説明
clear ntp statistics	NTP 統計情報をクリアします。
ntp	スイッチに NTP ピアおよびサーバを設定します。

show snmp community

スイッチに設定されている Simple Network Management Protocol (SNMP; 簡易ネットワーク管理プロトコル) コミュニティ ストリングを表示するには、**show snmp community** コマンドを使用します。

show snmp community

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、SNMP コミュニティ ストリングを表示する例を示します。

```
switch# show snmp community
Community          Group / Access      context    acl_filter
-----          -
public            network-admin
switch#
```

関連コマンド

コマンド	説明
snmp-server community	SNMP プロトコルへのアクセスを許可するコミュニティ アクセス ストリングを設定します。

show snmp context

スイッチに設定されている Simple Network Management Protocol (SNMP; 簡易ネットワーク管理プロトコル) コンテキストを表示するには、**show snmp context** コマンドを使用します。

show snmp context

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、SNMP コンテキストを表示する例を示します。

```
switch# show snmp context
```

関連コマンド

コマンド	説明
snmp-server context	SNMP コンテキストを設定します。

show snmp engineID

ローカルの Simple Network Management Protocol (SNMP; 簡易ネットワーク管理プロトコル) エンジンの ID を表示するには、**show snmp engineID** コマンドを使用します。

show snmp engineID

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

SNMP エンジンには、ローカルまたはリモート デバイスに常駐できる SNMP のコピーがあります。SNMP パスワードは、権威 SNMP エンジンの SNMP ID を使用してローカライズされます。

例

次に、SNMP エンジン ID を表示する例を示します。

```
switch# show snmp engineID
Local SNMP engineID: [Hex] 8000000903000DECB230C0
                    [Dec] 128:000:000:009:003:000:013:236:178:048:192
switch#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show running-config snmp	SNMP に関する実行コンフィギュレーション情報を表示します。

show snmp group

スイッチに設定されている Simple Network Management Protocol (SNMP; 簡易ネットワーク管理プロトコル) グループの名前を表示するには、**show snmp group** コマンドを使用します。

show snmp group

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、SNMP グループを表示する例を示します。

```
switch# show snmp group
```

```
Role: network-admin
```

```
Description: Predefined network admin role has access to all commands
on the switch
```

```
-----
Rule    Perm    Type      Scope      Entity
-----
1       permit  read-write
```

```
Role: network-operator
```

```
Description: Predefined network operator role has access to all read
commands on the switch
```

```
-----
Rule    Perm    Type      Scope      Entity
-----
1       permit  read
```

```
Role: vdc-admin
```

```
Description: Predefined vdc admin role has access to all commands within
a VDC instance
```

```
-----
Rule    Perm    Type      Scope      Entity
-----
1       permit  read-write
```

```
Role: vdc-operator
```

```
Description: Predefined vdc operator role has access to all read commands
within a VDC instance
```

```
-----
Rule    Perm    Type      Scope      Entity
-----
1       permit  read
```

```

Role: priv-3
Description: This is a system defined privilege role.
vsan policy: permit (default)
Vlan policy: permit (default)
Interface policy: permit (default)
Vrf policy: permit (default)

```

```

Role: priv-2
Description: This is a system defined privilege role.
vsan policy: permit (default)
Vlan policy: permit (default)
Interface policy: permit (default)
Vrf policy: permit (default)

```

```

Role: priv-1
Description: This is a system defined privilege role.
vsan policy: permit (default)
Vlan policy: permit (default)
Interface policy: permit (default)
Vrf policy: permit (default)

```

```

Role: priv-0
Description: This is a system defined privilege role.
vsan policy: permit (default)
Vlan policy: permit (default)
Interface policy: permit (default)
Vrf policy: permit (default)

```

Rule	Perm	Type	Scope	Entity
10	permit	command		traceroute6 *
9	permit	command		traceroute *
8	permit	command		telnet6 *
7	permit	command		telnet *
6	permit	command		ping6 *
5	permit	command		ping *
4	permit	command		ssh6 *
3	permit	command		ssh *
2	permit	command		enable *
1	permit	read		

```

Role: priv-15
Description: This is a system defined privilege role.
vsan policy: permit (default)
Vlan policy: permit (default)
Interface policy: permit (default)
Vrf policy: permit (default)

```

Rule	Perm	Type	Scope	Entity
1	permit	read-write		

```
switch#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show running-config snmp	SNMP に関する実行コンフィギュレーション情報を表示します。

show snmp host

Simple Network Management Protocol (SNMP; 簡易ネットワーク管理プロトコル) ホスト情報を表示するには、**show snmp host** コマンドを使用します。

show snmp host

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、SNMP ホストを表示する例を示します。

```
switch# show snmp host
```

関連コマンド

コマンド	説明
snmp-server host	SNMP ホストを設定します。

show snmp sessions

現在の Simple Network Management Protocol (SNMP; 簡易ネットワーク管理プロトコル) セッションを表示するには、**show snmp sessions** コマンドを使用します。

show snmp sessions

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、SNMP セッションを表示する例を示します。

```
switch# show snmp sessions
```

関連コマンド

コマンド	説明
show running-config snmp	SNMP に関する実行コンフィギュレーション情報を表示します。

show snmp trap

Simple Network Management Protocol (SNMP; 簡易ネットワーク管理プロトコル) リンク トラップ生成情報を表示するには、**show snmp trap** コマンドを使用します。

show snmp trap

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、SNMP トラップを表示する例を示します。

```
switch# show snmp trap
```

Trap type	Description	Enabled
entity	: entity_mib_change	Yes
entity	: entity_module_status_change	Yes
entity	: entity_power_status_change	Yes
entity	: entity_module_inserted	Yes
entity	: entity_module_removed	Yes
entity	: entity_unrecognised_module	Yes
entity	: entity_fan_status_change	Yes
link	: linkDown	Yes
link	: linkUp	Yes
link	: IETF-extended-linkDown	Yes
link	: IETF-extended-linkUp	Yes
link	: cisco-extended-linkDown	Yes
link	: cisco-extended-linkUp	Yes
callhome	: event-notify	No
callhome	: smtp-send-fail	No
cfs	: state-change-notif	No
cfs	: merge-failure	No
rf	: redundancy_framework	Yes
aaa	: server-state-change	No
license	: notify-license-expiry	Yes
license	: notify-no-license-for-feature	Yes
license	: notify-licensefile-missing	Yes
license	: notify-license-expiry-warning	Yes
zone	: unsupp-mem	No
upgrade	: UpgradeOpNotifyOnCompletion	Yes
upgrade	: UpgradeJobStatusNotify	Yes
feature-control	: FeatureOpStatusChange	No
sysmgr	: cseFailSwCoreNotifyExtended	No
rmon	: risingAlarm	No

```
rmon          : fallingAlarm          No
rmon          : hcRisingAlarm         No
rmon          : hcFallingAlarm        No
config        : ccmCLIRunningConfigChanged No
snmp          : authentication        No
bridge        : topologychange        No
bridge        : newroot               No
stp           : inconsistency         No
stp           : loop-inconsistency    No
stp           : root-inconsistency    No
switch#
```

関連コマンド

コマンド	説明
snmp trap link-status	SNMP リンク トラップの生成をイネーブルにします。

show snmp user

個々の簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP) ユーザの情報を表示するには、**show snmp user** コマンドを使用します。

show snmp user

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.1(3)N2(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、スイッチ上で設定された SNMP ユーザを表示する例を示します。

```
switch# show snmp user
```

```

SNMP USERS
-----
User                               Auth  Priv(enforce) Groups
-----
admin                               md5   des(no)           network-admin
NOTIFICATION TARGET USERS (configured for sending V3 Inform)
-----
User                               Auth  Priv
-----
switch#
```

次に、特定のユーザ アカウントに関する情報を表示する例を示します。

```
switch# show snmp user admin
switch#
```

関連コマンド

コマンド	説明
snmp-server user	SNMP グループに新しいユーザを設定します。



V コマンド

この章では、V で始まるシステム管理コマンドについて説明します。

verify (セッション)

現在のコンフィギュレーションセッションを検証するには、**verify** コマンドを使用します。

verify

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

セッション コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、セッションを検証する例を示します。

```
switch(config-s)# verify
Failed to start Verification: Session Database already locked, Verify/Commit in
Progress.
switch(config-s)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
commit	セッションをコミットします。
configure session	コンフィギュレーションセッションを作成します。
show configuration session	セッションの内容を表示します。



APPENDIX A

システム メッセージ ログिंग ファシリティ

この付録には、システム メッセージ ログング情報が含まれます。表 A-1 に、システム メッセージ ログング コンフィギュレーションで使用できるファシリティの一覧を示します。

表 A-1 システム メッセージ ログング ファシリティ

ファシリティ	説明
aaa	aaa Syslog メッセージのレベルを設定します。
aclmgr	aclmgr Syslog メッセージのレベルを設定します。
adjmgr	隣接マネージャの Syslog フィルタ レベルを設定します。
afm	afm Syslog メッセージのレベルを設定します。
all	すべてのファシリティのレベルを設定します。
altos	Syslog レベルを割り当てます。
arp	ARP の Syslog フィルタ レベルを設定します。
ascii-cfg	ascii-cfg 用のログング レベルを設定します。
auth	許可システムのレベルを設定します。
authpriv	許可（プライベート）システムのレベルを設定します。
backup	switchport backup Syslog メッセージのレベルを設定します。
bootvar	bootvar のレベルを設定します。
callhome	Callhome Syslog レベル。
capability	mig utils デーモンの Syslog レベルを設定します。
cdp	CDP のログングのレベルを設定します。
cert-enroll	Cert-enroll Syslog レベル。
cfs	CFS のログングのレベルを設定します。
clis	CLIS の Syslog フィルタ レベルを設定します。
core	コア デーモン Syslog レベル。
cron	Cron/ ファシリティのレベルを設定します。
daemon	システム デーモンのレベルを設定します。
dcbx	dcx Syslog メッセージのレベルを設定します。
device-alias	デバイス エイリアス分配サービスの Syslog レベルを設定します。
dhcp_snoop	DHCP スヌーピングの Syslog メッセージのレベルを設定します。
dstats	delta 統計情報 Syslog レベル。

表 A-1 システム メッセージ ログイング ファシリティ (続き)

ファシリティ	説明
epp	EPP Syslog メッセージのレベルを設定します。
ethpc	ethpc Syslog メッセージのレベルを設定します。
ethpm	イーサネット ポート マネージャ (ethpm) Syslog メッセージのレベルを設定します。
evmc	evmc Syslog メッセージのレベルを設定します。
fabric_start_cfg_mgr	FabricPath コンフィギュレーション マネージャの Syslog フィルタ レベルを設定します。
fc2d	fc2d Syslog メッセージのレベルを設定します。
fcdomain	fcdomain Syslog メッセージのレベルを設定します。
fcns	ネーム サーバの Syslog フィルタ レベルを設定します。
fcoe_mgr	イーサネット (FCoE) マネージャ Syslog メッセージのファイバ チャンネルのレベルを設定します。
fcpc	fcpc Syslog メッセージのレベルを設定します。
fcs	FCS の Syslog フィルタ レベルを設定します。
fdmi	fdmi のログイングのレベルを設定します。
feature-mgr	機能マネージャの Syslog レベル。
fex	Cisco Nexus 2000 シリーズ ファブリック エクステンダ Syslog メッセージのレベルを設定します。
flexlink	switchport backup Syslog メッセージのレベルを設定します。
flogi	flogi Syslog メッセージのレベルを設定します。
fs-daemon	FS daemon Syslog レベル。
fspf	FSPF Syslog レベル。
ftp	ファイル転送システムのレベルを設定します。
fwm	fwm Syslog メッセージのレベルを設定します。
gatos	Gatos Syslog レベル。
im	im Syslog メッセージのレベルを設定します。
interface-vlan	interface VLAN Syslog メッセージのレベルを設定します。
ip	IP Syslog メッセージのレベルを設定します。
ipconf	ipconf Syslog メッセージのレベルを設定します。
ipqos	ipqosmgr Syslog メッセージのレベルを設定します。
kernel	カーネルのレベルを設定します。
l3vm	L3VM の Syslog フィルタ レベルを設定します。
lacp	LACP Syslog メッセージのレベルを設定します。
license	ライセンス Syslog レベル。 (注) このファシリティは廃止予定で、Cisco NX-OS 5.0(2)N1(1) で licmgr ファシリティに置き換えられました。このコマンドは、下位互換性のためにいくつかのリリースにわたって保持されます。
licmgr	ライセンス Syslog レベル。
lldp	LLDP Syslog メッセージのレベルを設定します。

表 A-1 システム メッセージ ログイング ファシリティ (続き)

ファシリティ	説明
local0	ローカル ユース デーモンのレベルを設定します。
local1	ローカル ユース デーモンのレベルを設定します。
local2	ローカル ユース デーモンのレベルを設定します。
local3	ローカル ユース デーモンのレベルを設定します。
local4	ローカル ユース デーモンのレベルを設定します。
local5	ローカル ユース デーモンのレベルを設定します。
local6	ローカル ユース デーモンのレベルを設定します。
local7	ローカル ユース デーモンのレベルを設定します。
lpr	ライン プリンタ システムのレベルを設定します。
m2rib	マルチキャスト ルーティング情報ベースの (MRIB) ログイング メッセージのレベルを設定します。
mail	メール システムのレベルを設定します。
mfdm	マルチキャスト転送情報ベースの配信 (FIB) 配信 (MFDM) Syslog メッセージのレベルを設定します。
mfwd	マルチキャスト転送システム メッセージのレベルを設定します。
monitor	イーサネット スイッチド ポート アナライザ (SPAN) の Syslog メッセージのレベルを設定します。
news	USENET ニュースのレベルを設定します。
nohms	nohms Syslog メッセージのレベルを設定します。
nqosm	nqosm Syslog メッセージのレベルを設定します。
ntp	NTP の Syslog フィルタ レベルを設定します。
pfm	pfm Syslog メッセージのレベルを設定します。
pktmgr	パケット マネージャの Syslog フィルタ レベルを設定します。
plugin	plugin Syslog メッセージのレベルを設定します。
port	port Syslog メッセージのレベルを設定します。
port-channel	EtherChannel Syslog メッセージのレベルを設定します。
port-profile	ポート プロファイルの Syslog メッセージのレベルを設定します。
port-resources	prm Syslog メッセージのレベルを設定します。
provision	プロビジョニングの Syslog メッセージのレベルを設定します。
qd	qd Syslog メッセージのレベルを設定します。
radius	RADIUS Syslog レベル。
rdl	RDL のログイングのレベルを設定します。
res_mgr	res_mgr メッセージのレベルを設定します。
rib	rib のレベルを設定します。
rlir	RLIR のレベルを設定します。
routing	ルーティング情報のレベルを設定します。
rscn	RSCN のレベルを設定します。
san-port-channel	san-port-channel syslog メッセージのレベルを設定します。
scsi-target	SCSI ターゲット デーモン Syslog レベル。

表 A-1 システム メッセージ ログイング ファシリティ (続き)

ファシリティ	説明
security	セキュリティ Syslog レベル。
session	セッション マネージャ Syslog メッセージのレベルを設定します。 (注) このファシリティは廃止予定で、Cisco NX-OS 5.0(2)N1(1)で session-mgr ファシリティに置き換えられました。これは、下位互換性のためにいくつかのリリースにわたって保持されます。
session-mgr	セッション マネージャ Syslog メッセージのレベルを設定します。
smm	共有メモリ マネージャのログイング レベルを設定します。
snmpd	SNMP Syslog メッセージのレベルを設定します。
sifmgr	sifmgr Syslog メッセージのレベルを設定します。
spanning-tree	stp Syslog メッセージのレベルを設定します。
stp	stp Syslog メッセージのレベルを設定します。
syslog	内部 Syslog メッセージのレベルを設定します。
sysmgr	システム マネージャの Syslog レベル。
tacacs	TACACS+ Syslog レベル。
track	オブジェクト トラッキング メッセージのレベルを設定します。
tcpudp	TCPUDP の Syslog フィルタ レベルを設定します。
track	トラック Syslog メッセージのレベルを設定します。
udld	UDLD Syslog メッセージのレベルを設定します。
ufdm	ユニキャスト転送情報ベースの配信 (FIB) 配信 (UFDM) Syslog メッセージのレベルを設定します。
urib	ユニキャスト ルーティング情報ベース (URIB) の Syslog フィルタ レベルを設定します。
user	ユーザ プロセスのレベルを設定します。
uucp	UNIX-to-UNIX コピー システムのレベルを設定します。
vlan_mgr	VLAN Syslog メッセージのレベルを設定します。
vmm	vmm Syslog メッセージのレベルを設定します。
vpc	vPC Syslog メッセージのレベルを設定します。
vsan	VSAN Syslog レベル。
vshd	vshd のログイングのレベルを設定します。
vtp	interface VLAN Syslog メッセージのレベルを設定します。
wwnm	WWN マネージャの Syslog レベルを設定します。
xml	XML エージェント Syslog レベル。
zone	ゾーン サーバの Syslog フィルタ レベルを設定します。
zschk	zschk Syslog メッセージのレベルを設定します。